

---

---

平成 16 年度

日本精神科看護技術協会  
会員実態調査  
報告書

---

---

2005 年 12 月

社団法人 日本精神科看護技術協会

はじめに

昭和 51 年に日本精神科看護技術協会が法人化されて、今年で 30 周年を迎えました。現在では会員数も 40,000 人を超え、組織はますます拡大しています。近年の社会情勢をみると、少子高齢化が進む一方で社会環境は複雑化し、求められる看護も多様化してきています。

21 世紀は情報化時代であり、様々な分野で変革の兆しが出始めています。医療の場でもオーダリングシステムや電子カルテの導入等、IT の高度化に伴い情報の共有化が避けられない状況になってきており、それらに即応した変化が求められています。

このような時代のただなかにあって、当協会としては平成 14 年にはじめて会員基礎調査を実施しました。会員個人の属性に加え、協会の事業内容を中心として、ホームページ・日精看ニュースの活用状況、学会や研修会のあり方、そして認定制度のあり方などを調査項目としました。これらは「会員が今どのようなニーズを持ち、何を協会に期待しているのか」、そして「会員が望む将来の協会のあるべき姿は何か」を問うものであり、第 2 回目以降も継続して調査することにしました。当協会は、職能団体として現状の課題を的確に把握しつつ、時代に即した質の高い精神科看護を提供しなければならないと考えています。そこで、会員調査結果は、そのための貴重な資料として今後さらに活用し、協会の発展に生かしていく所存であります。

お忙しい中、調査に協力していただいた会員の皆様には、書面を借りて深く感謝の意を表します。

社団法人 日本精神科看護技術協会  
情報センター 吉川隆博

平成 16 年度

## 日本精神科看護技術協会会員実態調査

### 報 告 書

#### 目 次

	頁
はじめに	1
目 次	2
調査設計	4
母集団の内訳	6
まとめと考察	9
本 編	17
§ 1. 会員自身について	19
1) 最終学歴	19
2) 所有している免許	20
3) 看護師学校養成所 2 年課程への進学希望	21
4) 勤務状況	24
5) 転職経験	28
§ 2. 勤務先について	32
1) 勤務先の状況	32
2) 勤務形態	33
3) 勤務先への満足度	36
§ 3. 会員について	41
1) 会員期間	41
2) 会員を辞めた経験	42
3) 会員になった動機	43
4) 会費の負担状況	44

5) 日精看以外の所属団体	45
§ 4. 協会について	47
1) 『日精看ニュース』の閲読状況	47
2) 学会と研修会	49
3) 協会ホームページ	56
4) 認定制度の認知状況	61
§ 5. 精神科看護に対する考えについて	63
調査結果の総括	68

# 日本精神科看護技術協会会員実態調査

## 調査設計

### I 調査の目的

会員の勤務形態や精神科看護に対する考え、並びに協会に対する意見・要望等について調査することにより、今後の協会の事業や活動の企画・運営に役立てるとともに、精神科看護の更なる発展に資する。

### II 調査の対象

会員総数 41,812 名の内、4,000 名を無作為抽出し調査を行なった。有効回答数は 1,956 件で、回収率は 48.9%であった。(前回平成 14 年度会員総数 40,203 名、有効回答 2,007 件[回収率 53.4%])

### III 調査の方法

調査対象として抽出した上記会員宛に調査票を郵送した。

### IV 調査の内容

#### 1) 会員自身について

- ①性別と年齢
- ②配偶者と子供の有無
- ③最終学歴
- ④所有している免許の種類
- ⑤勤務経験施設
- ⑥勤務期間
- ⑦採用形態と職位
- ⑧転職経験

#### 2) 勤務先について

- ①勤務先
- ②勤務している診療科
- ③勤務先の設置主体

- ④勤務先の週休形態
  - ⑤現在の勤務先を選んだ理由
  - ⑥勤務先で満足している項目、不満に感じている項目
- 3) 会員について
- ①会員期間
  - ②会員を辞めた経験
  - ③会員になった動機
  - ④会費の負担方法
  - ⑤日精看以外の所属団体
- 4) 協会について
- ①日精看ニュースの閲読状況
  - ②協会ホームページの閲覧状況
  - ③学会，研修会への参加経験
- 5) 精神科看護に対する考え

## **V 調査の期間**

2005年8月～12月

## **VI 調査の主体**

社団法人 日本精神科看護技術協会

## 母集団の内訳

### ■性 別

合 計	男 性	女 性	無回答
1,956	529	1,415	12
100.0%	27.0%	72.3%	0.6%

### ■年 齢

合 計	30歳未満	30～40歳 未満	40～50歳 未満	50～60歳 未満	60歳以上	無回答
1,956	266	384	624	565	87	30
100.0%	13.6%	19.6%	31.9%	28.9%	4.4%	1.5%

※平均 43.7 歳

### ■配偶者と子供

合 計	配偶者			子供		
	有	無	無回答	有	無	無回答
1,956	1,352	586	18	1,424	478	54
100.0%	69.1%	30.0%	0.9%	72.8%	24.4%	2.8%

### ■最終学歴

合 計	准看護師養成 所・高校衛生 看護学科	看護高校 専攻科	看護師養成所 2年・短大2 年課程	看護師養成所 3年課程	短期大学3年 課程
	1,956	485	80	465	789
100.0%	24.8%	4.1%	23.8%	40.3%	2.0%
	保健師・助産 婦専門学校	看護系大学	大学院	その他	無回答
	25	20	14	15	24
	1.3%	1.0%	0.7%	0.8%	1.2%

■所有免許の種類（複数回答）

合 計	看護師	准看護師	保健師	助産師	介護支援 専門員	精神保健 福祉士	無回答
1,956	1,446	887	42	11	140	29	8
100.0%	73.9%	45.3%	2.1%	0.6%	7.2%	1.5%	0.4%

■働いている免許

合 計	看護師	准看護師	保健師	助産師	介護支援 専門員	精神保健 福祉士	無回答
1,956	1,435	500	3	1	2	2	13
100.0%	73.4%	25.6%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.7%

■主たる勤務先

合 計	総合病院	精神病院	診療所	訪問看護 ステーション	社会復帰施設
1,956	184	1,670	9	12	16
100.0%	9.4%	85.4%	0.5%	0.6%	0.8%
	都道府県・ 市町村	企業	教育・研究 機関	その他	無回答
	10	1	33	8	13
	0.5%	0.1%	1.7%	0.4%	0.7%

■勤務している診療科

合 計	精神科	神経科	神経 内科	心療 内科	内科	外科	その他	無回答
1,956	1,697	19	4	2	24	2	17	89
100.0%	91.5%	1.0%	0.2%	0.1%	1.3%	0.1%	0.9%	4.8%

■勤務先の設置主体

合 計	国	公的機関	社会保険関係 団体	公益法人	医療法人
1,956	45	286	20	312	1,164
100.0%	2.3%	14.6%	1.0%	16.0%	59.5%
	学校法人	会社	その他の法人	個人	無回答
	30	0	27	44	28
	1.5%	0%	1.4%	2.2%	1.4%

■勤務先の所在地

都道府県名		数	比率	都道府県名		数	比率
北海道・東北	北海道	88	4.5%	中国・四国	京都府	24	1.2%
	青森県	21	1.1%		大阪府	81	4.1%
	岩手県	39	2.0%		兵庫県	51	2.6%
	秋田県	25	1.3%		奈良県	16	0.8%
	山形県	62	3.2%		和歌山県	28	1.4%
	宮城県	16	0.8%		福井県	25	1.3%
	福島県	47	2.4%		鳥取県	20	1.0%
関東・甲信越	茨城県	24	1.2%	島根県	37	1.9%	
	栃木県	45	2.3%	岡山県	66	3.4%	
	群馬県	61	3.1%	広島県	110	5.6%	
	埼玉県	34	1.7%	山口県	43	2.2%	
	千葉県	72	3.7%	徳島県	35	1.8%	
	東京都	62	3.2%	香川県	22	1.1%	
	神奈川県	69	3.5%	愛媛県	49	2.5%	
	新潟県	70	3.6%	高知県	32	1.6%	
	長野県	19	1.0%	福岡県	38	1.9%	
	山梨県	26	1.3%	佐賀県	57	2.9%	
東海・北陸・近畿	富山県	20	1.0%	九州・沖縄	長崎県	26	1.3%
	石川県	38	1.9%		熊本県	76	3.9%
	岐阜県	41	2.1%		大分県	15	0.8%
	静岡県	34	1.7%		宮崎県	17	0.9%
	愛知県	52	2.7%		鹿児島県	24	1.2%
	三重県	34	1.7%		沖縄県	46	2.4%
	滋賀県	14	0.7%		無回答	5	0.3%

# まとめと考察

本協会は、設立から27年目を迎え、会員数も40,000人を超えている。今回、会員の勤務形態や精神科看護に対する考えに加えて、本協会に対する意見・要望等を伺うべく、全会員の約1割に相当する3,764名の会員に対してアンケートを送付し、2,007名（回収率53.5%）の会員から回答を得た。

## 1. 会員自身について

会員の免許についてみると、看護師の免許で働いている会員の割合は72.7%である。また、准看護師の割合は26.3%であり、他の免許の割合は少ない。

職位の状況を見ると、管理職に就いている会員の割合は23.3%である。これを免許別にみると、看護師の30.5%が管理職に就いているのに対して、准看護師の同割合は3.8%である。

それぞれを年齢別にみると、看護師は、「50～60歳未満」の会員の半数近く（46.9%）が管理職に就いているのに対して、准看護師では、同割合が5.1%である。看護師と准看護師で、職位の状況に大きな差があるといえる。

転職経験の状況についてみると、転職経験が「有り」と回答した会員の割合は6割近く（56.9%）を占めている。

また、転職経験者1人当たりの平均転職回数は2.4回であり、転職経験者のうち、複数回（2回以上）の転職経験のある人が64.6%を占めている。転職経験者の大半が複数回の転職を経験している状況が窺われる。

続いて年収の状況についてみると、年収額を「500万円以上」と「500万円未満」に区切って分析したところ、全体では、「500万円未満」の会員の割合が6割近くを占めている。

看護師に限って年収の状況を見ると、総数では、「500万円未満」が53.1%、「500万円以上」が34.6%である。これを年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が高くなり、「50～60歳未満」になると同割合が6割近くを占めている。

同様に准看護師に限って年収の状況を見ると、総数では「500万円未満」が71.0%、「500万円以上」が13.4%である。年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が高くなるものの、50歳代になっても同割合が25%に満たない状況であり、看護師の同割合（58.3%）と比較すると大きな差がみられる。

次に国・公的機関に勤務している会員に限って年収の状況を見ると、総数では、「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が約6割（60.2%）を占めている。年齢別に

みると、年齢層が高くなるほど「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が急速に高まり、50歳代になると同割合が83.3%を占めている。国・公的機関では、年齢層が高まると共に、着実かつ急速に年収が高まる傾向がみられる。

一方、民間に勤務している会員に限って年収の状況をみると、総数では、「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が29.7%であり、国・公的機関のそれ（60.2%）を大きく下回っている。年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「500万円以上」の年収を得ている会員の割合が高まるものの、50歳代になっても同割合が34.6%であり、やはり国・公的機関のそれ（83.3%）を大きく下回っている。民間と国・公的機関で、年齢層による年収の状況に大きな差があるといえる。

## 2. 勤務先について

主たる勤務先について調査したところ、「病院」の割合が95.4%を占めており、ほとんどの会員が、主に「病院」で勤務している。「病院」を主たる勤務先としている会員（1,821名）に対して、勤務している診療科について調査したところ、「精神科」の割合が95.1%を占めており、病院勤務者のほとんどが「精神科」に勤務しているといえる。

勤務先の週休形態についてみると、「週2日以上休みをとれる」会員の割合が74.6%を占めている。

また、勤務先から支給を受けている手当についてみると、「通勤手当」が86.0%、「夜勤手当」が76.3%であり、これらの手当についてはほとんどの会員が支給を受けているとみられる。

注：本項目は対象の属性により支給されないものもあり、この割合が制度の有無を表しているものではない。

続いて、通勤先で最も満足している項目についてみると、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が34.6%で最も高く、これに「福利厚生等」（23.2%）、「人間関係」（12.6%）・・・と続いている。一方、「業務内容」を挙げた会員の割合は5.5%にとどまっている。

また、通勤先で最も不満に感じている項目について調査したところ、「福利厚生等」を挙げた会員の割合が50.5%で半数以上を占めている。

## 考 察

勤務先の週休形態は、「週2日以上休みをとれる」会員の割合が74.6%を占めており、看護師の間でも、週休2日制が定着してきたといえる。

手当については、「通勤手当」と「夜勤手当」は、ほとんどの会員が支給を受けて

いる。ただ、今回の調査では明らかにならないことが多く、今後、当該項目について更に詳細に検討していきたいと考える。

また、職場の満足度をみてもわかるように、「福利厚生等」に不満を感じている会員が多く、今後、各勤務先の福利厚生の状況について調査することで、問題点を明らかにしていきたい。

### 3. 会員について

会員期間についてみると、会員1人当たりの平均期間は9.2年であり、会員期間が5年未満のフレッシュ会員が38.7%、同5～20年未満の中堅会員が43.9%、同20年以上のベテラン会員が13.9%となっている。

会員になった動機は、「精神科の職能団体だから」との動機を挙げた会員の割合が55.2%で最も高く、これに「学会や研修会に参加するため」(44.2%)、「勧められたから」(43.4%)、「業務命令・指示・規則」(28.7%)・・・と続いている。

これを年齢別にみると、高齢層では、「精神科の職能団体だから」「日精看ニュースを読みたいから」との動機を挙げた会員の割合が高く、若年層では、「勧められたから」「業務命令・指示・規則」との動機を挙げた会員の割合が高くなっている。

### 考 察

高齢層は、能動的な項目を動機としている会員の割合が高いのに比べて、若年層は受動的な項目を動機としている会員の割合が高い。

また、若年層は、学会や研修会への参加についても不満を持っている会員が多いようであり、今後は、若年層でも会員のメリットを充分感じられるような企画や活動を推進していきたいと考える。

### 4. 協会について

『日精看ニュース』の閲読状況について調査したところ、「必ず読む」会員の割合が37.4%である。「時々読む」会員の割合(48.1%)を併せると8割以上が閲読しており、『日精看ニュース』の閲読率は高いとみられる。

ただ、協会ホームページの閲覧状況についてみると、ホームページを閲覧している(「よくみる」+「時々みる」)会員の割合は11.2%であり、ホームページはあまり活用されていない状況が窺われる。

続いて協会主催の学会・研修会への参加経験の有無についてみると、学会の参加経験が「有る」と回答した会員の割合は64.3%、研修会の参加経験が「有る」と回答し

た会員の割合は 55.6%であり、どちらも半数以上の会員が参加経験を有している。

一方、支部主催の研修会への参加経験の有無についてみると、「有る」と回答した会員の割合は 76.9%であり、大半の会員が参加経験を有しているといえる。

認定制度の認知状況についてみると、認知している（「目指している」+「知っている興味がある」+「知っているが興味はない」）会員の割合は 82.2%を占めている。

また、認定制度に興味を持っている会員も 4割以上を占めている。

協会主催の海外視察の認知状況についてみると、認知している（「知っている興味がある」+「知っているが興味はない」）会員の割合は 56.6%を占めており、半数の会員が認知しているといえる。また、海外視察に興味を持っている会員は 22.0%である。

これを『日精看ニュース』の閲読状況別にみると、認知している会員、興味を持っている会員のどちらの割合も、『日精看ニュース』をよく閲読している会員ほど高くなっている。『日精看ニュース』が、会員に情報を提供するのに役立っているといえる。

## 考 察

『日精看ニュース』に対する評価はまずまずであり、多くの会員に閲読されている状況が窺われた。

ただ、ホームページについては、閲覧している会員が少なく、掲示板コーナーを設けていながらも会員同士の情報交換の場になり得ていない。ホームページは、会員がタイムリーに情報を入手でき、かつ会員同士が情報交換できる場として有益であることから、更に魅力有る内容とすることで、閲覧率の向上に努めていきたいと考える。

また、学会や研修会などについては、若年から高齢の会員まで、少しでも多くの方々に参加していただけるよう、開催地、開催回数、テーマなどについて検討していきたい。



本 編

## § 1. 会員自身について

### 1) 最終学歴

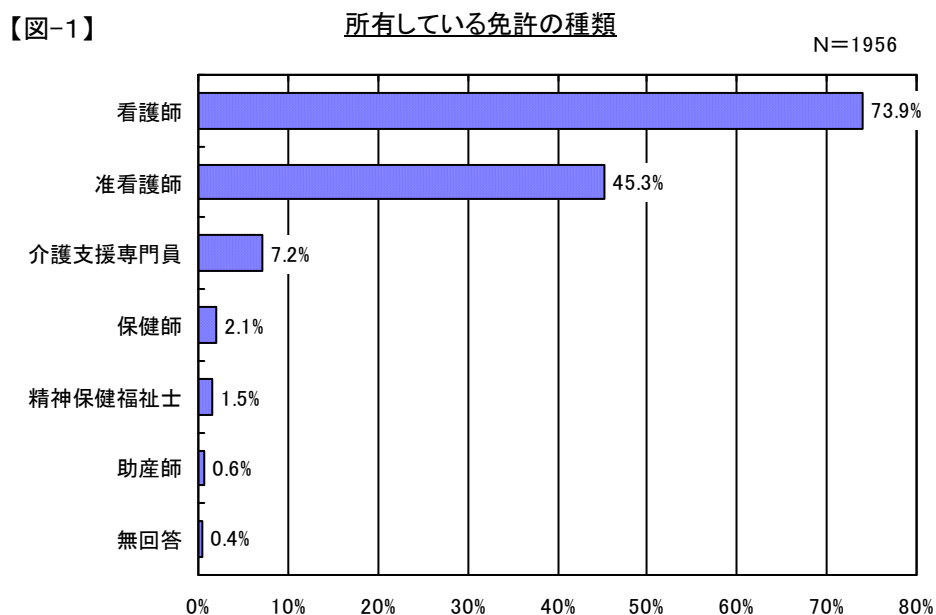
【表-1】 最終学歴の状況 (S A、%)

	高校衛生看護学科 准看護師養成所・ 看護高校専攻科	看護師養成所 短期大学2年課程	看護師養成所 短期大学2年課程・ 看護師養成所2年課程	看護師養成所 3年課程	短期大学 3年課程	保健師・助産師専門学校	看護系大学	大学院	その他	無回答
総数 (1956)	24.8	4.1	23.8	<b>40.3</b>	2.0	1.3	1.0	0.7	0.8	1.2
<b>【年齢別】</b>										
30歳未満 (266)	22.9	4.5	23.3	<b>38.7</b>	3.0	1.5	5.3	0	0.4	0.4
30～40歳未満 (384)	16.9	4.4	28.4	<b>43.0</b>	3.1	1.0	0.5	1.0	0.5	1.0
40～50歳未満 (624)	22.1	5.1	24.4	<b>41.3</b>	2.1	1.1	0.2	1.6	1.4	0.6
50～60歳未満 (565)	32.7	3.2	20.9	<b>38.8</b>	1.1	1.2	0.5	0	0.4	1.2
60歳以上 (87)	35.6	0	20.7	<b>39.1</b>	0	3.4	0	0	1.1	0

協会の会員 1,956 名に対して、最終学歴について調査したところ、「看護師養成所 3 年課程」の割合が 40.3% で最も高く、これに「准看護師養成所・高校衛生看護学科」(24.8%)、「看護師養成所 2 年課程・短期大学 2 年課程」(23.8%)・・・と続いている。

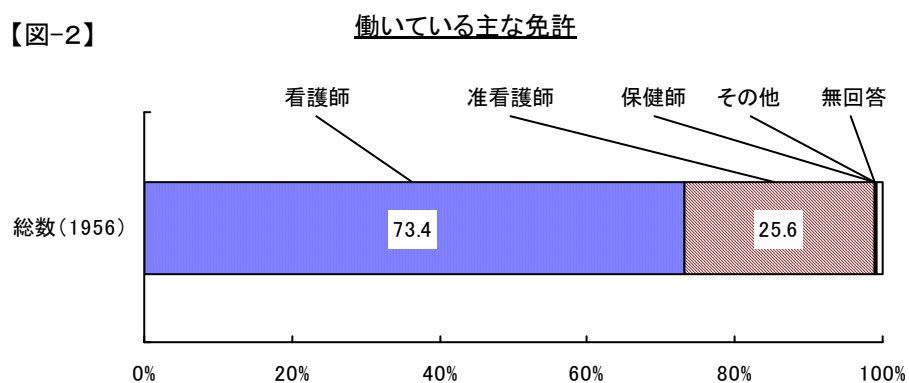
最終学歴の状況を年齢別にみると、いずれの年齢層でも「看護師養成所 3 年課程」の割合が最も高くなっている。また、年齢層が高くなるほど「准看護師養成所・高校衛生看護学科」の割合が高まる傾向がみられ、50 歳代以上になると同割合が 3 割を超えている。

## 2) 所有している免許



所有している免許の種類について調査したところ、「看護師」の割合が73.9%で突出して高く、これに「准看護師」が45.3%で続いている。

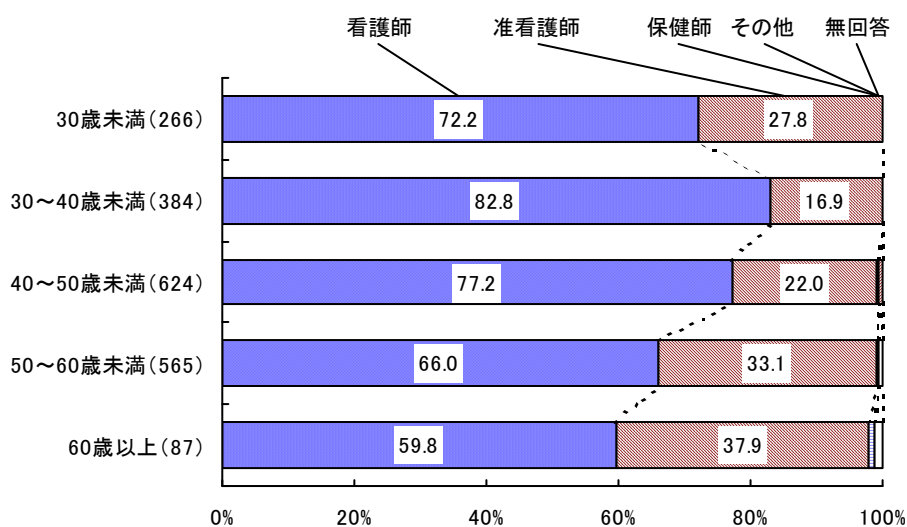
また、「介護支援専門員」の割合が7.2%であり、「保健師」「精神保健福祉士」「助産師」は、いずれもわずかである。



続いて、現在、主にどの免許で働いているかについて調査したところ、「看護師」の割合が73.4%を占めている。

一方、「准看護師」の割合は、25.6%である。

【図-3】 働いている主な免許(年齢別)



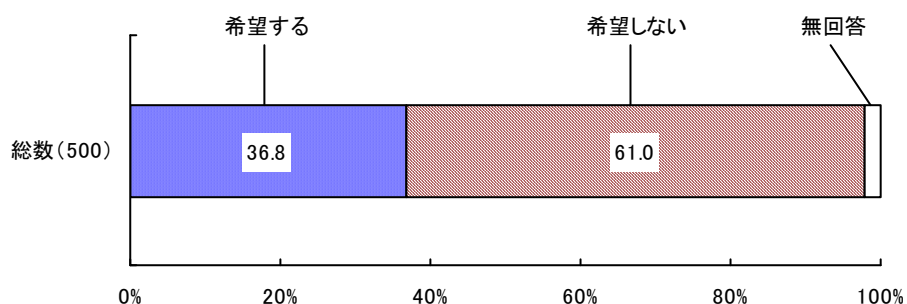
これを年齢別にみると、“30～40歳未満”で「看護師」の割合が最も高く、「看護師」の免許で働いている会員の割合が8割を超えている。

また、30歳代以降は、年齢が高くなるに伴い、「看護師」の割合が低下する傾向がみられる。

### 3) 看護師学校養成所2年課程への進学希望

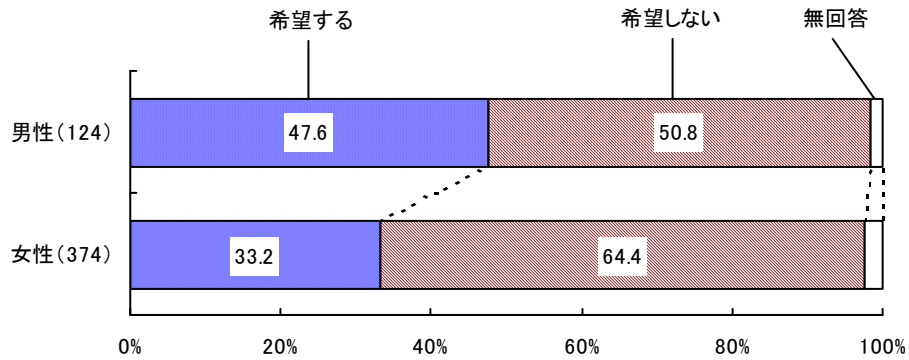
#### ①進学希望の状況

【図-4】 看護師学校養成所2年課程への進学希望状況



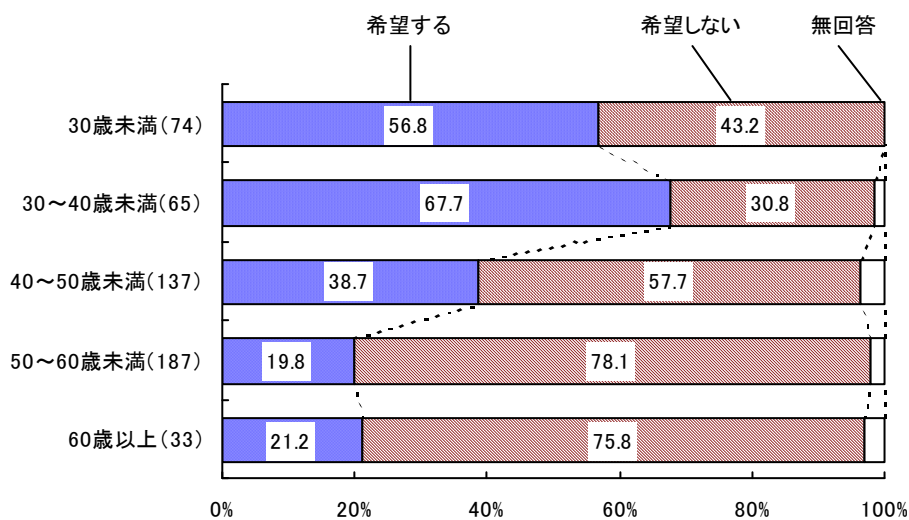
准看護師の資格で働いている会員に対して、看護師学校養成所2年課程（通信制）への進学希望について調査したところ、「希望する」との回答は36.8%である。

【図-5】 看護師学校養成所2年課程への進学希望状況(性別)



性別にみると、「希望する」と回答した会員の割合は、“女性”よりも“男性”の方が高く、“男性”では同割合がほぼ半数を占めている。

【図-6】 看護師学校養成所2年課程への進学希望状況(年齢別)

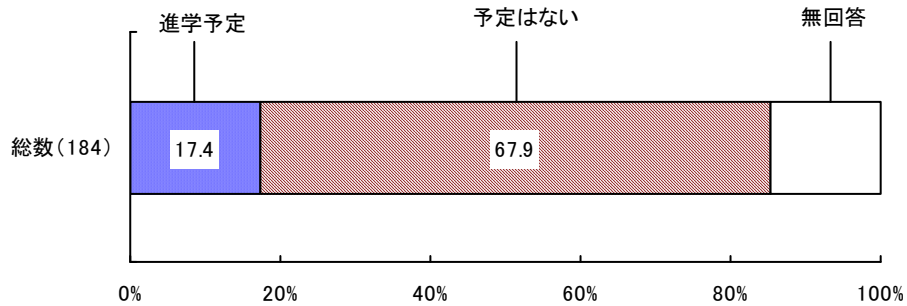


これを年齢別にみると、“30~40歳未満”で「希望する」会員の割合が最も高く、7割近くを占めている。

また、30歳代以降は、年齢が高くなるに伴い、「希望する」会員の割合が低下する傾向がみられ、50歳代以降は同割合が20%前後にまで低下している。

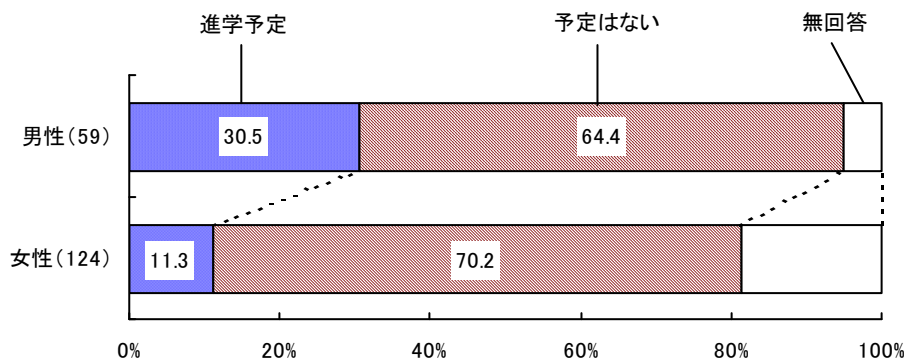
## ②進学予定の状況

【図-7】 看護師学校養成所2年課程への進学予定状況



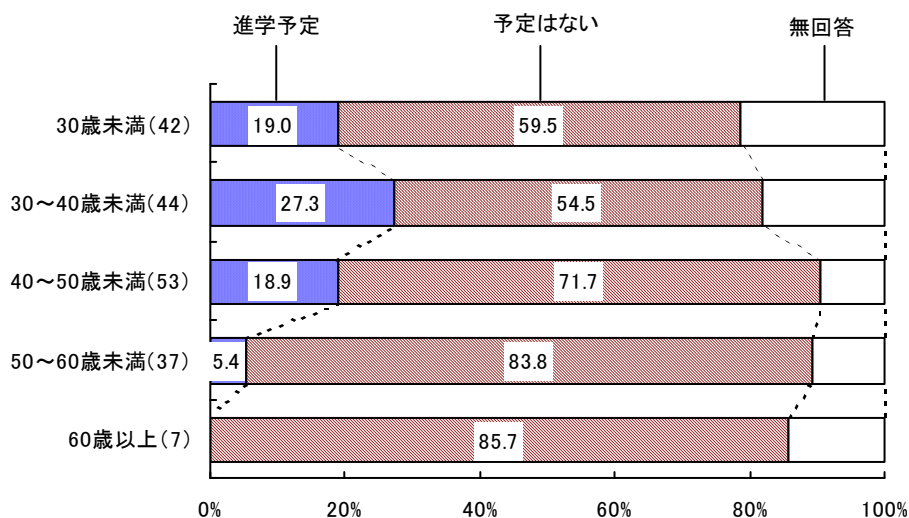
看護師学校養成所2年課程（通信制）への進学を希望している会員に対して、今後の進学予定の状況について調査したところ、「進学予定」との回答は17.4%である。

【図-8】 看護師学校養成所2年課程への進学予定状況(性別)



性別にみると、「進学予定」と回答した会員の割合は、“女性”よりも“男性”の方が高く、“男性”では同割合が30%以上を占めている。

【図-9】 看護師学校養成所2年課程への進学予定状況(年齢別)



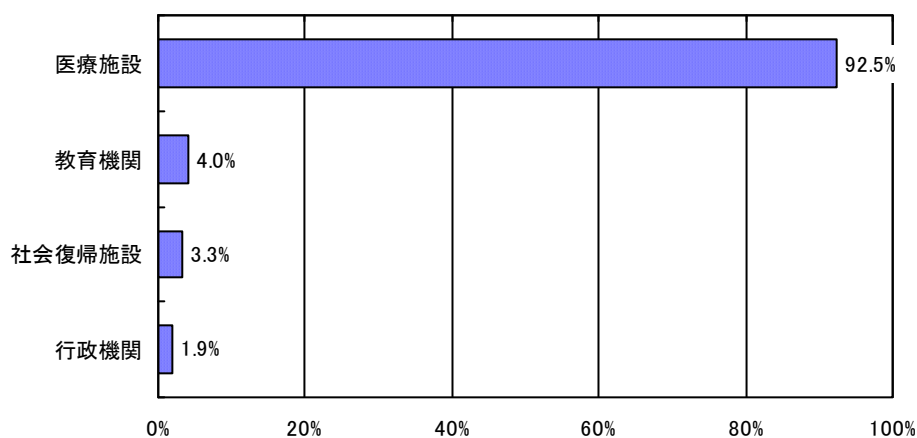
これを年齢別にみると、「30~40歳未満」で「進学予定」と回答した会員の割合が最も高く、同割合が3割近くを占めている。

また、30歳代以降は、年齢が高くなるに伴い、「進学予定」と回答した会員の割合が低下する傾向がみられ、50歳代では同割合が約5%に低下している。

#### 4) 勤務状況

##### ①勤務経験施設

【図-10】 勤務経験施設 N=1956



看護師、准看護師、保健師、助産師等の免許を取得してから勤務経験がある施設（パートは含まない）について調査したところ、「医療施設」が92.5%で突出して高く、「教育機関」「社会復帰施設」「行政機関」での勤務経験がある会員は、いずれもわずかである。

## ②現在勤務している施設での勤務年数

【表-2】 現在勤務している施設での勤務年数 (S A、%)

	1年 以下	2年	3年	4年	5~ 9年	10~ 14年	15~ 19年	20~ 24年	25年 以上	無 回答	平均 年数
総数 (1956)	4.1	5.5	7.3	5.2	<b>23.8</b>	19.0	11.7	9.4	13.1	0.9	12.4
<b>【設置主体別】</b>											
国 (45)	2.2	11.1	2.2	4.4	15.6	8.9	15.6	8.9	<b>31.1</b>	0	16.4
公的機関 (286)	5.2	6.3	8.4	2.8	17.5	17.5	10.8	10.5	<b>21.0</b>	0	14.0
社保関係団体 (20)	5.0	0	10.0	10.0	<b>20.0</b>	10.0	15.0	10.0	<b>20.0</b>	0	14.4
公益法人 (312)	4.5	4.5	7.7	3.8	<b>24.7</b>	19.2	12.2	10.3	12.2	1.0	12.5
医療法人 (1164)	3.2	5.3	7.1	5.7	<b>26.0</b>	19.8	11.7	9.5	11.2	0.5	12.0
学校法人 (30)	13.3	13.3	13.3	6.7	13.3	13.3	<b>16.7</b>	3.3	6.7	0	9.3
その他の法人 (27)	18.5	3.7	3.7	7.4	<b>25.9</b>	22.2	7.4	3.7	7.4	0	9.3
個人 (44)	2.3	2.3	6.8	11.4	<b>29.5</b>	27.3	9.1	2.3	9.1	0	10.3

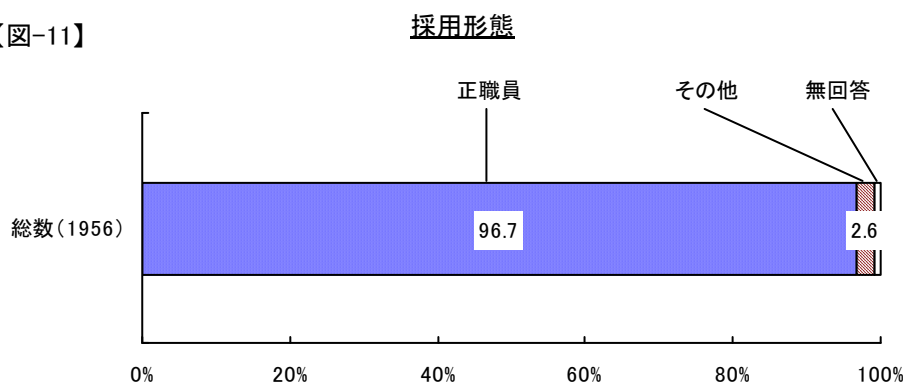
現在勤務している施設での勤務年数について調査したところ、会員1人当たりの平均勤続年数は12.4年である。

勤続年数をカテゴリー別にみると、同じ勤務先に10年以上勤務している会員の割合が半数以上(53.2%)を占めている。また、20年以上に渡って同じ勤務先に勤務している会員の割合は、2割を超えている(22.5%)。

これを設置主体別にみると、会員1人当たりの平均勤続年数は、“医療法人”“個人”などの民間系の施設に比べて“国”“公的機関”などの国公立系の施設の方が長くなっている。

### ③採用形態

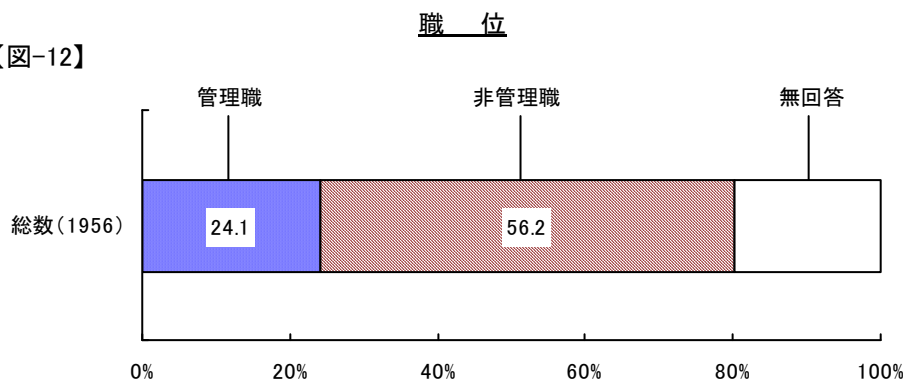
【図-11】



勤務先での採用形態について調査したところ、「正職員」の割合が96.7%を占めている。

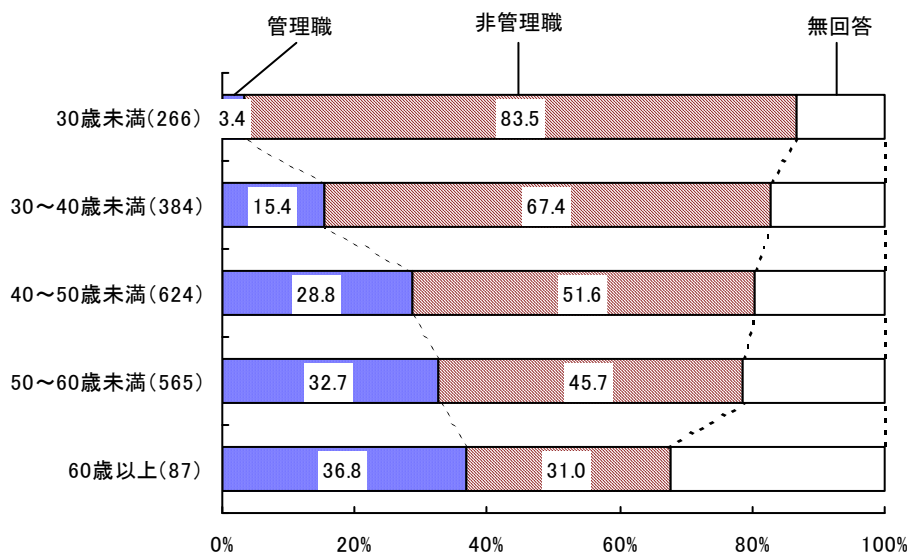
### ④職位

【図-12】



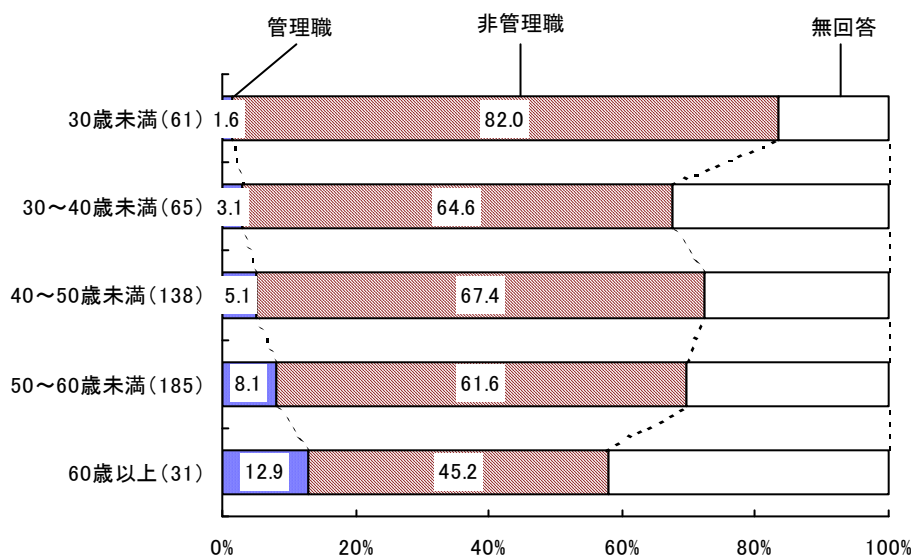
職位について調査したところ、「管理職」の割合は24.1%である。

【図-13】 職 位(年齢別)



職位の状況を年齢別にみると、「管理職」の割合は、年齢が高くなるほど高まる傾向がみられる。特に40歳を境に「管理職」の割合が高くなり、“60歳以上”では36.8%を占めている。

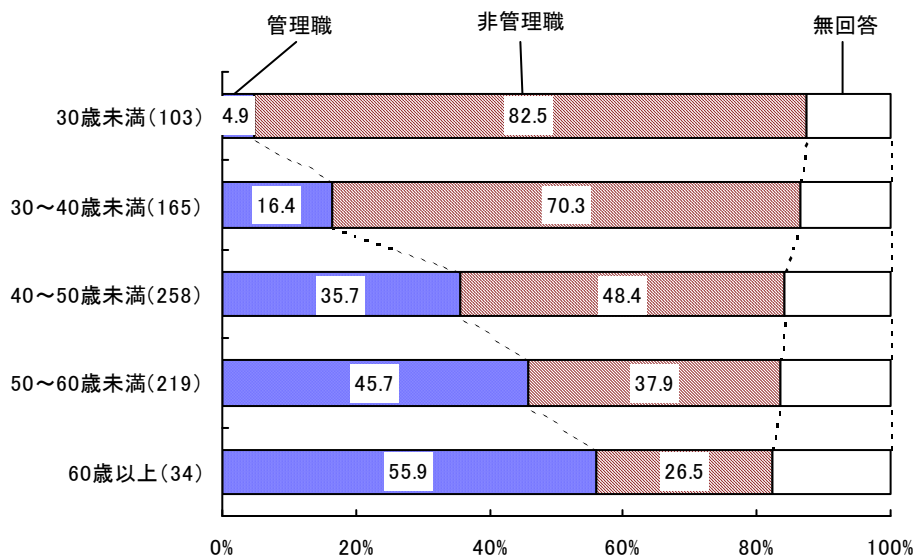
【図-14】 准看護師養成所・高校衛生看護学科卒者の職位(年齢別)



最終学歴が「准看護師養成所・高校衛生看護学科」の職位の状況を年齢別にみると、

「管理職」の割合は、“60歳以上”でも12.9%にとどまっている。

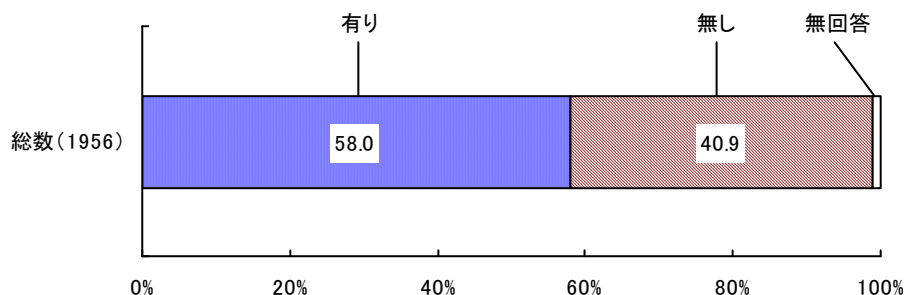
【図-15】 看護師養成所3年課程卒者の職位(年齢別)



これを最終学歴が「看護師養成所3年課程」の職位の状況を年齢別にみると、「管理職」の割合は、年齢層が高くなるに伴って大きく増加し、“60歳以上”では55.9%を占めている。最終学歴が、職位の状況に大きく影響しているといえる。

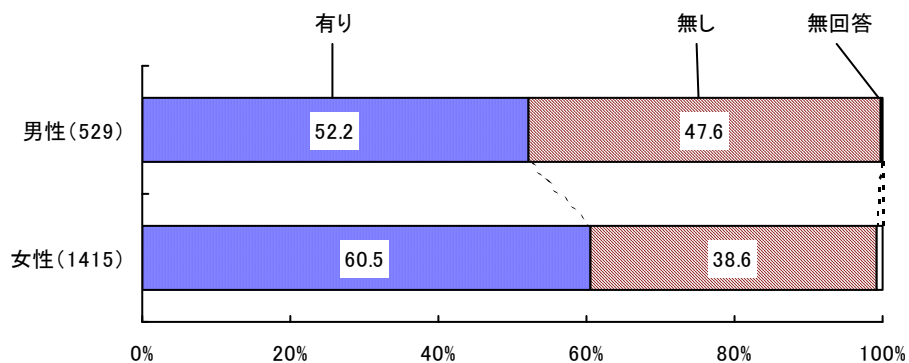
## 5) 転職経験

【図-16】 転職経験の有無



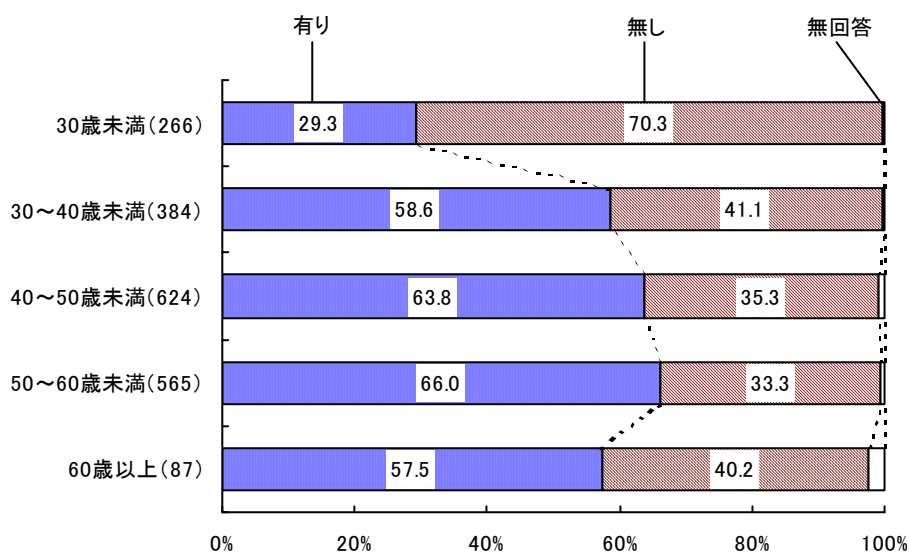
転職経験について調査したところ、転職経験が「有り」と回答した会員の割合は58.0%を占めており、ほぼ6割の会員が転職経験を有している。

【図-17】 転職経験の有無(性別)



転職経験の有無を性別にみると、転職経験が「有り」と回答した会員の割合は、“女性”が“男性”を8ポイント程度上回っている。

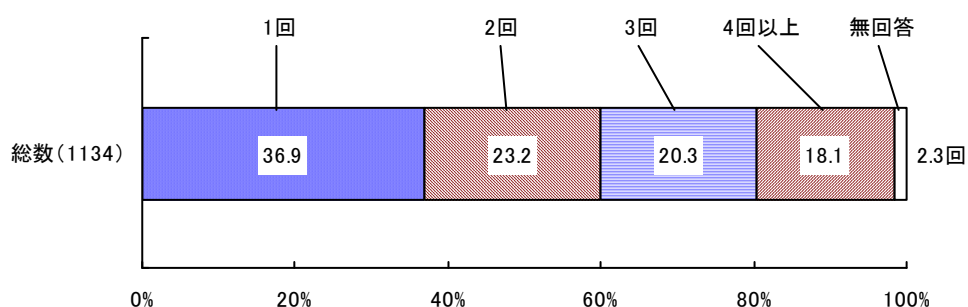
【図-18】 転職経験の有無(年齢別)



転職経験の有無を年齢別にみると、“30歳未満”から“30~40歳未満”にかけて「有り」と回答した会員の割合が急増しており、30歳代で転職を経験する方が多いと推察される。

【図-19】

## 転職回数

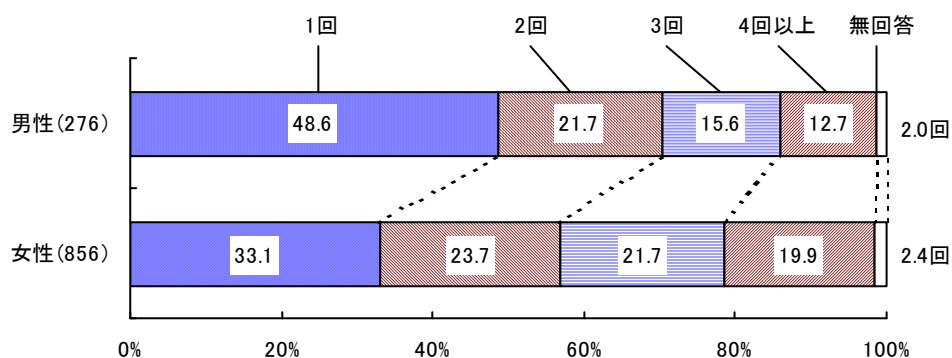


続いて、転職経験がある1,134名の会員に対して、転職した回数について調査したところ、会員1人当たりの平均転職回数は2.3回である。

これをカテゴリー別にみると、2回以上の複数回の転職経験がある人の割合が61.6%を占めており、転職経験者の大半が複数回の転職を経験しているといえる。

【図-20】

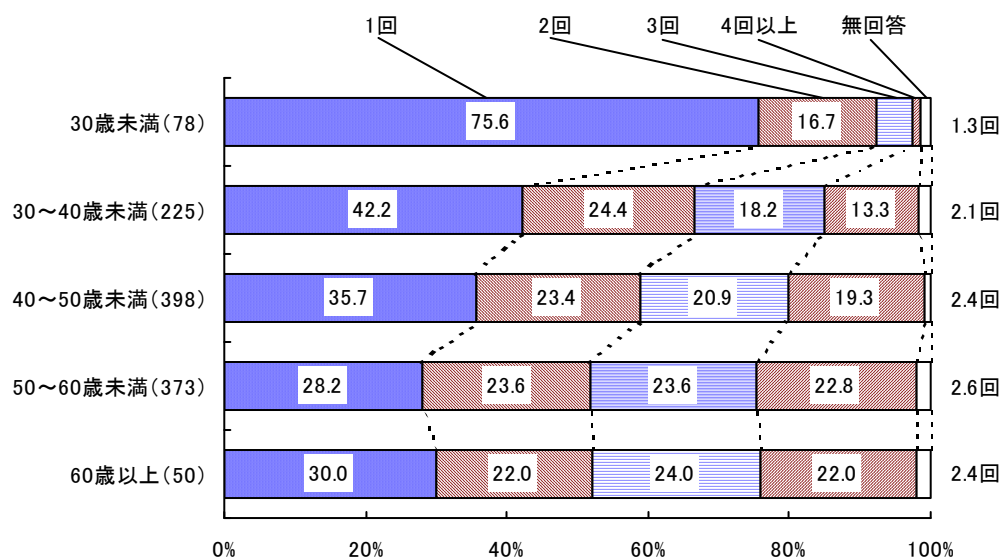
## 転職回数(性別)



転職回数の状況を性別にみると、会員1人当たりの平均転職回数は、“男性”が2.0回、“女性”が2.4回であり、“女性”が“男性”を上回っている。また、複数回数の転職を経験している会員の割合は、“女性”が“男性”を15ポイント程度上回っている。

【図-21】

転職回数(年齢別)



転職回数の状況を年齢別にみると、50歳以上の層で2回以上の複数回の転職経験がある人の割合が7割近くを占めており、大半が複数回の転職を経験しているといえる。

また、2回以上の複数回の転職経験がある人の割合は、“30歳未満”から“30~40歳未満”にかけて30ポイント以上増えており、特に「3回」「4回以上」の割合も急増している。

## § 2. 勤務先について

### 1) 勤務先の状況

#### ①主たる勤務先と診療科

【表-3】 主たる勤務先 (SA、%)

	総合病院	精神科病院	診療所	訪問看護ステーション	社会復帰施設	都道府県・市町村	企業	教育・研究機関	その他	無回答
総数 (1956)	9.4	<b>85.4</b>	0.5	0.6	0.8	0.5	0.1	1.7	0.4	0.7

主たる勤務先について調査したところ、「精神科病院」の割合が 85.4%を占めており、ほとんどの会員が「精神科病院」を主たる勤務先としている。

【表-4】 勤務している診療科 (SA、%)

	精神科	神経科	神経内科	心療内科	内科	外科	その他	無回答
総数 (1956)	<b>91.5</b>	1.0	0.2	0.1	1.3	0.1	0.9	4.8

また、病院を主たる勤務先としている 1,854 名の会員に対して、勤務している診療科について調査したところ、「精神科」の割合が 91.5%を占めており、病院勤務者のほとんどが「精神科」に勤務している。

## ②勤務先の設置主体

【表-5】 勤務先の設置主体 (S A、%)

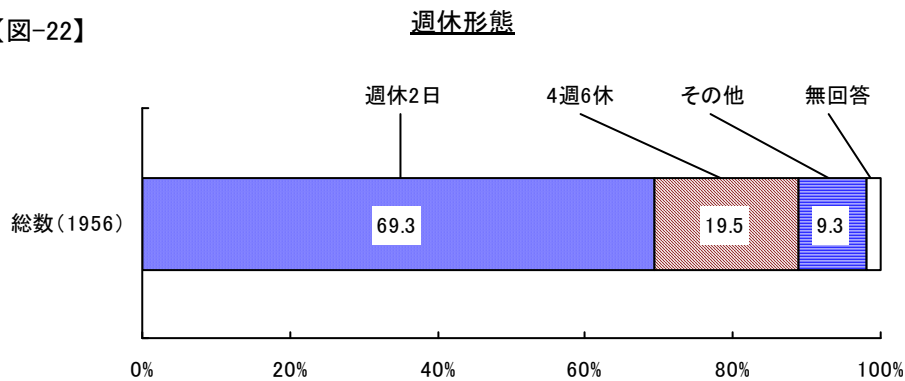
	国	公的機関	社会保険関係団体	公益法人	医療法人	学校法人	会社	その他の法人	個人	無回答
総数(1956)	2.3	14.6	1.0	16.0	59.5	1.5	0	1.4	2.2	1.4

勤務先の設置主体について調査したところ、「医療法人」の割合が59.5%で最も高く、これに「公益法人」(16.0%)、「公的機関」(14.6%)・・・と続いている。

## 2) 勤務形態

### ①週休形態

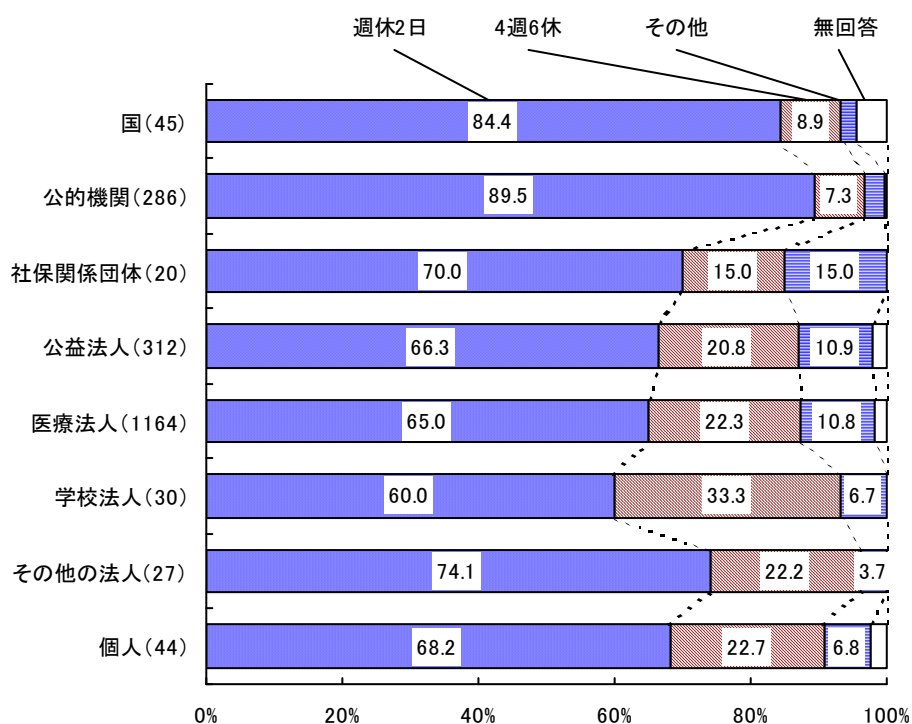
【図-22】



勤務先の週休形態について調査したところ、「週休2日」と回答した会員の割合が69.3%を占めている。

【図-23】

週休形態(設置主体別)

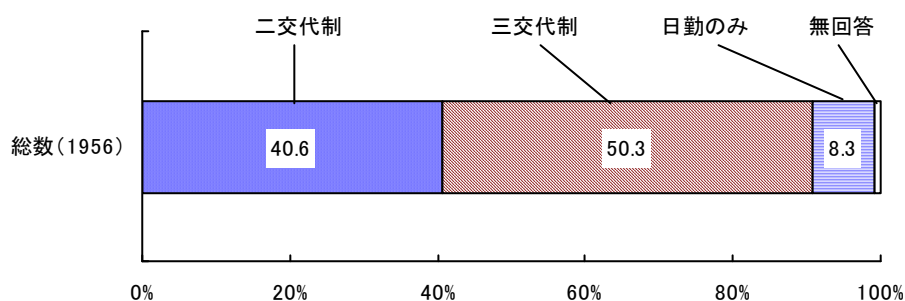


週休形態の状況を設置主体別にみると、「週休2日」と回答した会員の割合は、“医療法人”や“個人”などの民間系の施設に比べて“国”“公的機関”等の国公立系の施設で高くなっている。

## ②勤務体制

【図-24】

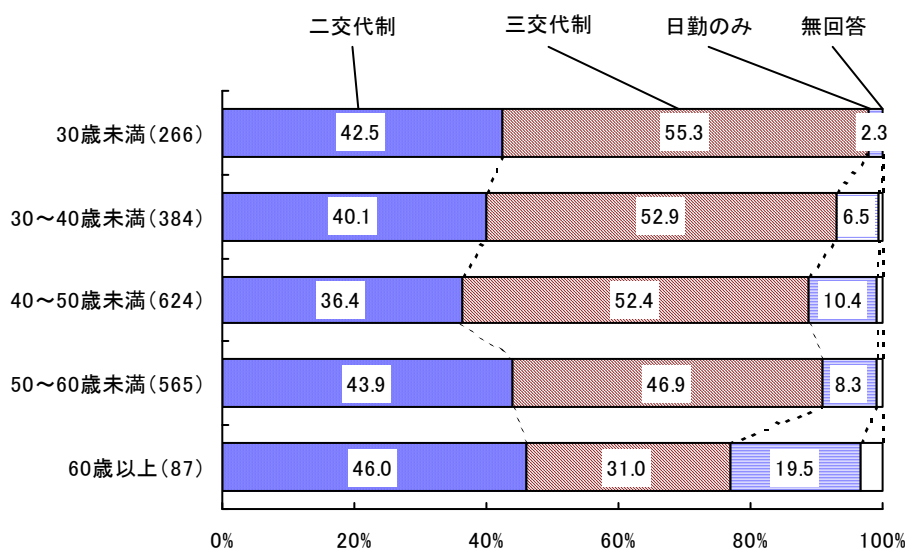
勤務体制



勤務先の勤務体制について調査したところ、「三交代制」と回答した会員の割合が半数を占め、これに「二交代制」が40.6%で続いている。

【図-25】

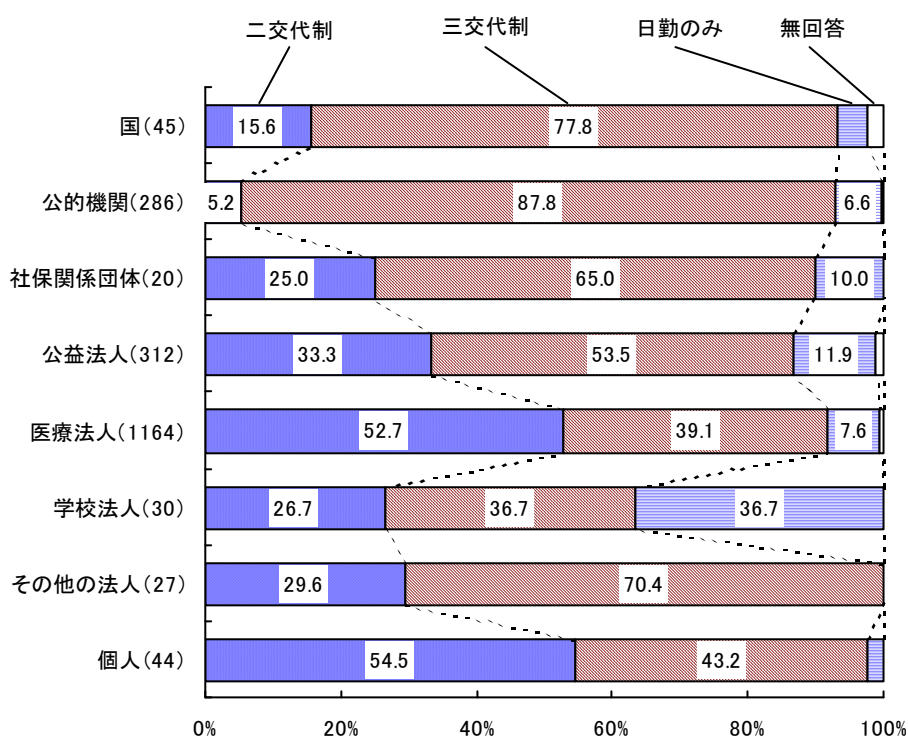
勤務体制(年齢別)



年齢別にみると、年齢層が高くなると「三交代制」の割合が低下し、“60歳以上”では約30%にまで低下する。対して、“60歳以上”では「日勤のみ」の割合が高くなり、ほぼ20%を占めている。

【図-26】

勤務体制(設置主体別)



次に勤務先の設置主体別にみると、「二交代制」と回答した会員の割合は、“医療法人”と“個人”がどちらも半数を超えているのに対して、“国”“公的機関”は2割を下回っている。中でも“公的機関”は、「三交代制」が9割近くを占めている。設置主体によって、勤務体制の状況に大きな差があるとみられる。

### 3) 勤務先への満足度

#### ①現在の勤務先を選んだ理由

【表-6】 現在の勤務先を選んだ理由 (SA、%)

	勤務先の理念	勤務先の規模・安定性	通勤の利便性	給与	福利厚生	進学に対する配慮	労働時間・労働量・夜勤体制	出産・育児・介護への配慮	その他	特になし	無回答
総数 (1956)	8.0	21.5	<b>26.3</b>	2.6	1.0	5.4	9.9	2.8	10.5	10.8	1.7
【性別】											
男性 (529)	10.0	<b>27.2</b>	16.4	3.8	0.6	8.7	5.9	0.6	9.0	16.1	1.9
女性 (1415)	7.2	19.4	<b>30.0</b>	2.1	1.2	4.2	11.3	3.6	10.4	9.0	1.6
【年齢別】											
30歳未満 (266)	8.6	<b>16.5</b>	15.4	2.6	1.5	11.7	8.3	0.8	15.8	16.2	2.6
30～40歳未満 (384)	5.7	22.4	<b>23.7</b>	2.9	0.5	6.8	10.7	5.2	8.9	12.0	1.3
40～50歳未満 (624)	8.2	23.1	<b>28.5</b>	3.4	0.8	3.7	9.8	3.4	8.8	9.5	1.0
50～60歳未満 (565)	9.2	22.3	<b>29.0</b>	1.8	1.6	3.9	10.1	1.4	9.5	9.4	1.9
60歳以上 (87)	6.9	16.1	<b>41.4</b>	1.1	0	2.3	9.2	3.4	5.7	9.2	4.6
【設置主体別】											
国 (45)	8.9	<b>31.1</b>	15.6	2.2	2.2	8.9	0	0	17.8	11.1	2.2
公的機関 (286)	5.9	<b>53.8</b>	15.0	2.1	1.7	1.4	4.2	1.0	6.9	7.0	0.7
社保関係団体 (20)	5.0	10.0	<b>35.0</b>	10.0	0	10.0	5.0	5.0	10.0	10.0	0
公益法人 (312)	8.0	18.3	<b>27.2</b>	2.9	1.0	5.1	7.7	2.9	12.1	12.2	2.6
医療法人 (1164)	7.8	14.1	<b>30.2</b>	2.7	0.9	6.6	12.6	3.4	9.3	10.8	1.5
学校法人 (30)	16.7	<b>23.3</b>	6.7	0	0	0	0	0	36.7	16.7	0
その他の法人 (27)	11.1	<b>33.3</b>	25.9	0	0	3.7	3.7	0	7.4	14.8	0
個人 (44)	15.9	<b>18.2</b>	13.6	0	0	4.5	13.6	4.5	4.5	22.7	2.3

現在の勤務先を選んだ理由（最も大きな理由）について調査したところ、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が26.3%で最も高く、これに「勤務先の規模・安定性」（21.5%）、「労働時間・労働量・夜勤体制」（9.9%）・・・と続いている。

これを性別にみると、男性は、「勤務先の規模・安定性」を挙げた会員の割合が最も高いのに対して、女性は、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が最も高い。

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が高まっている。

設置主体別にみると、“国”“公的機関”は、「勤務先の規模・安定性」を挙げた会員の割合が最も高く、特に“公的機関”の同割合は53.8%と突出して高い。

一方、“医療法人”は、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が最も高い。

## ②勤務先で満足している項目

【表-7】 現在の勤務先で満足している項目 (S A、%)

	勤務先の理念	勤務先の規模・安定性	通勤の利便性	給与	人間関係	業務内容	労働時間・労働量・夜勤体制	出産・育児・介護への配慮	その他	特にない	無回答
総数 (1956)	7.3	13.9	<b>22.6</b>	3.1	11.3	3.5	12.2	2.3	5.4	16.8	1.6
【性別】											
男性 (529)	8.9	<b>15.9</b>	14.2	4.5	11.7	3.8	11.2	0.9	7.7	20.0	1.1
女性 (1415)	6.6	13.1	<b>25.8</b>	2.5	11.2	3.5	12.5	2.8	4.6	15.5	1.8
【年齢別】											
30歳未満 (266)	2.6	7.9	12.0	2.6	<b>22.2</b>	3.0	14.7	4.5	9.4	19.9	1.1
30～40歳未満 (384)	4.9	12.0	<b>23.4</b>	3.6	11.2	1.8	11.7	5.5	5.7	17.3	1.3
40～50歳未満 (624)	7.5	13.3	<b>24.0</b>	3.0	10.7	4.3	12.0	1.1	5.3	17.3	1.3
50～60歳未満 (565)	11.2	18.2	<b>24.1</b>	2.8	7.8	4.1	12.0	0.7	3.7	13.3	2.1
60歳以上 (87)	5.7	16.1	<b>37.9</b>	2.3	4.6	2.3	8.0	0	2.2	12.6	8.0
【設置主体別】											
国 (45)	11.1	<b>24.4</b>	17.8	4.4	13.3	4.4	2.2	0	2.2	15.6	4.4
公的機関 (286)	6.3	<b>23.8</b>	17.1	9.8	8.4	4.5	9.4	1.4	7.9	10.8	0.3
社保関係団体 (20)	0	5.0	<b>30.0</b>	0	25.0	0	20.0	0	5.0	5.0	10.0
公益法人 (312)	5.4	15.4	<b>21.5</b>	3.2	10.3	3.5	12.5	3.5	4.8	17.6	1.9
医療法人 (1164)	8.1	10.7	<b>24.9</b>	1.4	11.9	3.2	13.4	2.4	5.1	17.7	1.3
学校法人 (30)	3.3	<b>13.3</b>	6.7	10.0	10.0	13.3	0	3.3	0	26.7	0
その他の法人 (27)	3.7	18.5	<b>29.6</b>	0	14.8	0	7.4	0	0	25.9	0
個人 (44)	9.1	11.4	<b>22.7</b>	0	11.4	0	13.6	0	2.3	27.3	2.3

通勤先で最も満足している項目について調査したところ、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が22.6%で最も高く、これに「勤務先の規模・安定性」(13.9%)、「労働時間・労働量・夜勤体制」(12.2%)、「人間関係」(11.3%)・・・と続いている。

これを性別にみると、男性は、「勤務先の規模・安定性」を挙げた会員の割合が最も高いのに対して、女性は、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が最も高い。

年齢別にみると、“30歳未満”では「人間関係」を挙げた会員の割合が最も高く、

30歳代以上の層では、いずれの層においても「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が最も高い。また、年齢層が高くなるに伴い、「勤務先の規模・安定性」を挙げた会員の割合が高くなる傾向がみられる。

設置主体別にみると、“国”“公的機関”では、「勤務先の規模・安定性」を挙げた会員の割合が最も高い。一方、“医療法人”では、「通勤の利便性」を挙げた会員の割合が最も高い。

### ③勤務先で不満に感じている項目

【表-8】 現在の勤務先で不満に感じている項目 (S A、%)

	通勤の利便性	給与	福利厚生	人間関係	業務内容	昇格規定	労働時間・労働量・夜勤体制	研修の充実	その他	特にない	無回答
総数 (1956)	2.0	<b>30.8</b>	5.3	9.4	11.2	5.6	8.1	3.2	4.1	17.7	2.6
【年齢別】											
30歳未満 (266)	1.1	<b>41.4</b>	3.4	7.5	11.7	3.4	10.2	4.1	4.6	11.7	1.1
30～40歳未満 (384)	2.1	<b>34.4</b>	4.4	5.5	11.7	7.0	7.3	4.4	6.2	14.6	2.3
40～50歳未満 (624)	1.6	<b>31.9</b>	6.1	10.6	12.0	5.6	8.7	3.0	4.0	14.4	2.1
50～60歳未満 (565)	2.7	<b>24.6</b>	5.8	10.8	11.0	5.3	7.8	1.9	2.7	23.9	3.5
60歳以上 (87)	2.3	<b>16.1</b>	6.9	<b>16.1</b>	4.6	5.7	2.3	2.3	2.3	34.5	6.9
【設置主体別】											
国 (45)	2.2	13.3	0	11.1	15.6	4.4	<b>26.7</b>	0	0	15.6	11.1
公的機関 (286)	4.5	<b>14.0</b>	2.1	11.5	13.6	10.1	12.2	2.8	7.9	19.2	1.7
社保関係団体 (20)	0	<b>30.0</b>	5.0	0	20.0	10.0	15.0	5.0	0	10.0	5.0
公益法人 (312)	1.9	<b>32.1</b>	5.8	8.7	8.7	5.8	8.3	3.5	3.9	18.9	2.6
医療法人 (1164)	1.4	<b>35.2</b>	6.3	9.4	10.7	4.6	6.1	3.4	3.1	17.3	2.5
学校法人 (30)	3.3	13.3	10.0	6.7	<b>20.0</b>	0	13.3	3.3	13.3	13.3	3.3
その他の法人 (27)	0	<b>33.3</b>	3.7	7.4	14.8	3.7	7.4	7.4	7.4	14.8	0
個人 (44)	0	<b>47.7</b>	4.5	6.8	11.4	2.3	2.3	0	2.3	22.7	0

通勤先で最も不満に感じている項目について調査したところ、「給与」を挙げた会員の割合が30.8%で最も高く、これに「業務内容」(11.2%)、「人間関係」(9.4%)・・・

と続いている。

年齢別にみると、「給与」と回答した会員の割合は、年齢が高くなるほど低下する傾向がみられ、給与への不満を持っている会員は、比較的若い層に多いようである。

“60 歳以上”では、同割合が 16.1%にまで低下し、「人間関係」(16.1%)と同じ割合になっている。

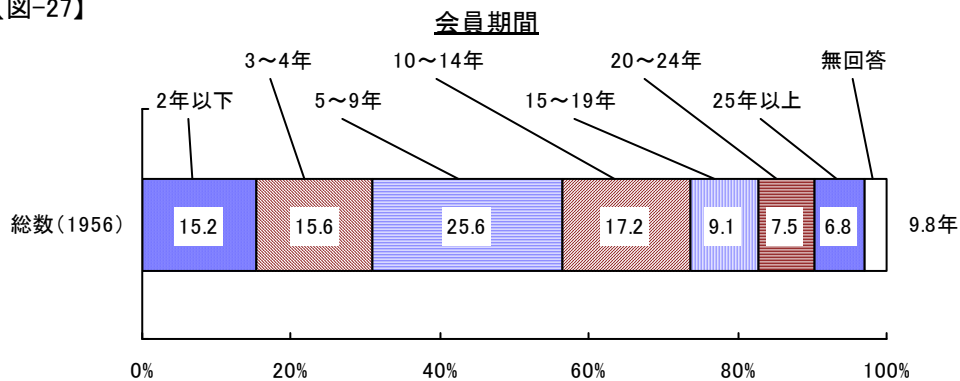
また、“60 歳以上”では「特にない」との回答が 34.5%を占め、高齢層は、若い層に比べて勤務先に不満がないと感じている会員の割合が高い。

設置主体別にみると、「給与」を挙げた会員の割合は、“国”“公的機関”などの国公立系の施設に比べて“医療法人”や“個人”などの民間系の施設で高くなっている。

### § 3. 会員について

#### 1) 会員期間

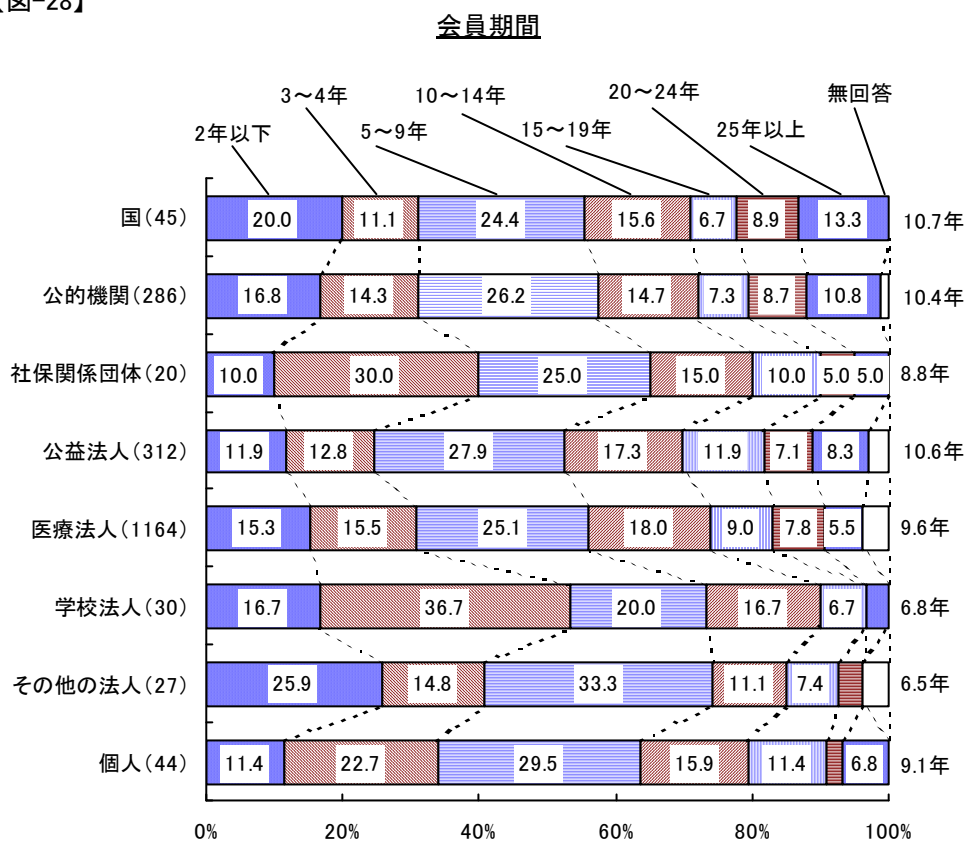
【図-27】



会員期間について調査したところ、会員1人当たりの平均期間は9.8年である。

これをカテゴリー別にみると、会員期間が5年未満のフレッシュ会員が30.8%、同5～20年未満の中堅会員が51.9%、同20年以上のベテラン会員が23.4%となっている。

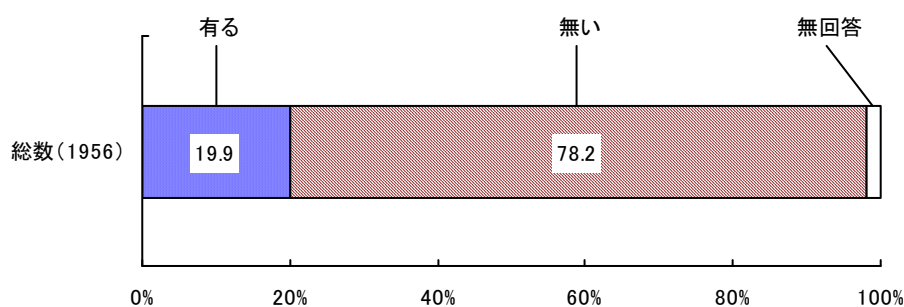
【図-28】



設置主体別にみると、“国”“公的機関”“公益法人”は、会員期間の平均値が、他に比べて高くなっている。また、“国”“公的機関”は、25年以上の会員の割合がともに10%を超えている。

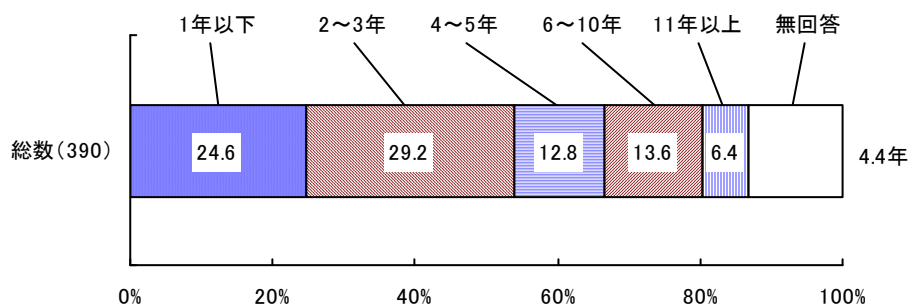
## 2) 会員を辞めた経験

【図-29】 会員を辞めた経験



会員を辞めた経験について調査したところ、辞めた経験が「有る」と回答した会員の割合はほぼ2割である。

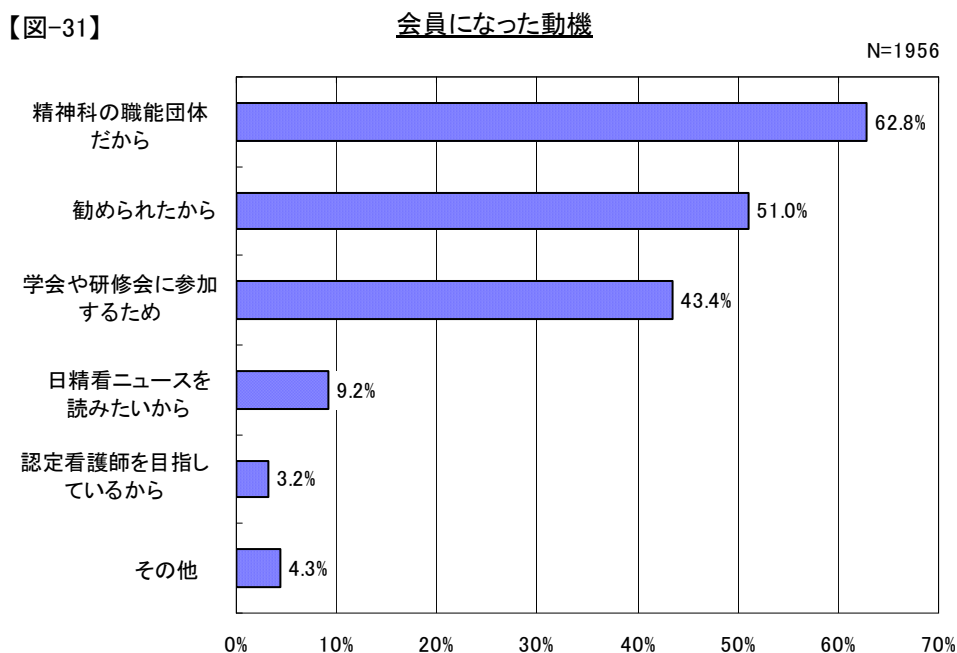
【図-30】 辞めた期間



会員を辞めた経験がある390名の会員に対して、会員を辞めた期間について調査したところ、会員1人当たりの平均期間は4.4年である。

これをカテゴリー別にみると、半数以上の会員が3年以下と短期間である。一方、「11年以上」と長期にわたって辞めていた会員は6.4%である。

### 3) 会員になった動機



会員になった動機について調査したところ、「精神科の職能団体だから」との動機を挙げた会員の割合が 62.8%で最も高く、これに「勧められたから」(51.0%)、「学会や研修会に参加するため」(43.4%)・・・と続いている。

【表-9】 会員になった動機（年齢別）

	精神科の職能団体だから	学会や研修会に参加するため	から日精看ニュースを読みたい	から認定看護師を目指している	勧められたから	その他
【年齢別】						
30歳未満 (266)	57.1	40.2	4.1	4.9	<b>65.8</b>	3.8
30～40歳未満 (384)	<b>57.3</b>	43.2	7.0	8.1	52.6	4.7
40～50歳未満 (624)	<b>65.4</b>	44.4	8.5	2.6	50.0	5.6
50～60歳未満 (565)	<b>66.4</b>	44.8	13.3	0.5	45.8	3.7
60歳以上 (87)	<b>67.8</b>	37.9	13.8	0	37.9	1.1

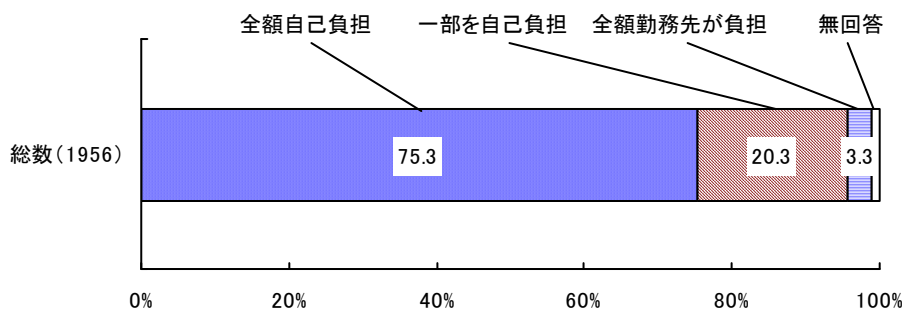
これを年齢別にみると、30歳代以上では、いずれの年齢層においても「精神科の職能団体だから」との動機を挙げた会員の割合が最も高く、“30歳未満”では、「勧められたから」との動機を挙げた会員の割合が最も高い。

ベテランになると、能動的な項目を動機としている会員の割合が高いのに対して、若い層では受け身的な項目を動機としている会員の割合が高く、年齢層によって会員になった動機の違いを感じ方に差があるといえる。

#### 4) 会費の負担状況

【図-32】

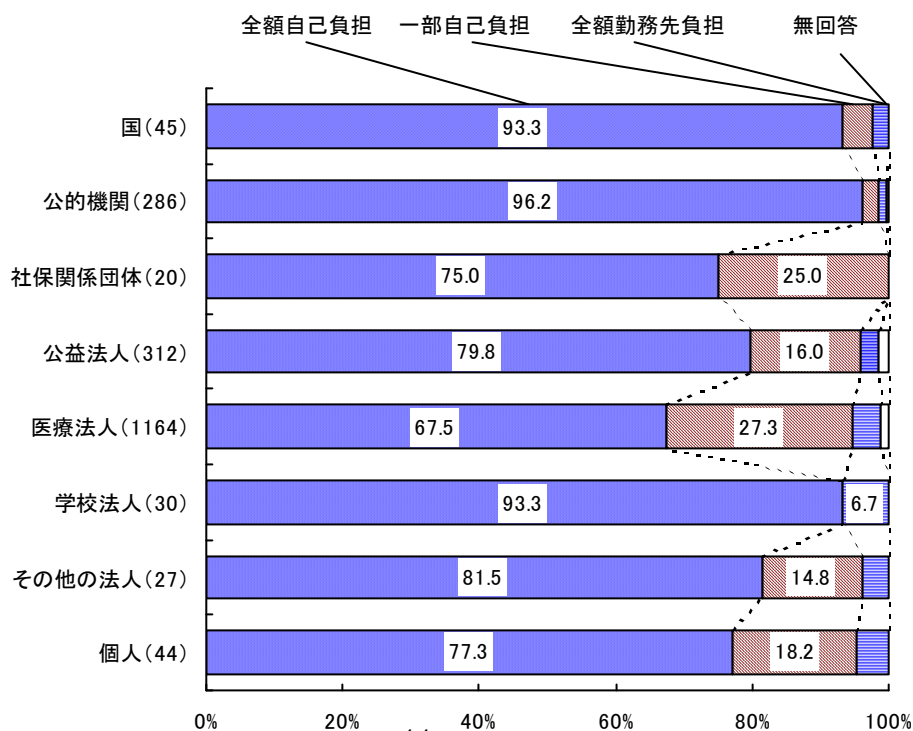
会費の自己負担の状況



会費の負担状況について調査したところ、「全額自己負担」している会員の割合が75.3%を占めている。

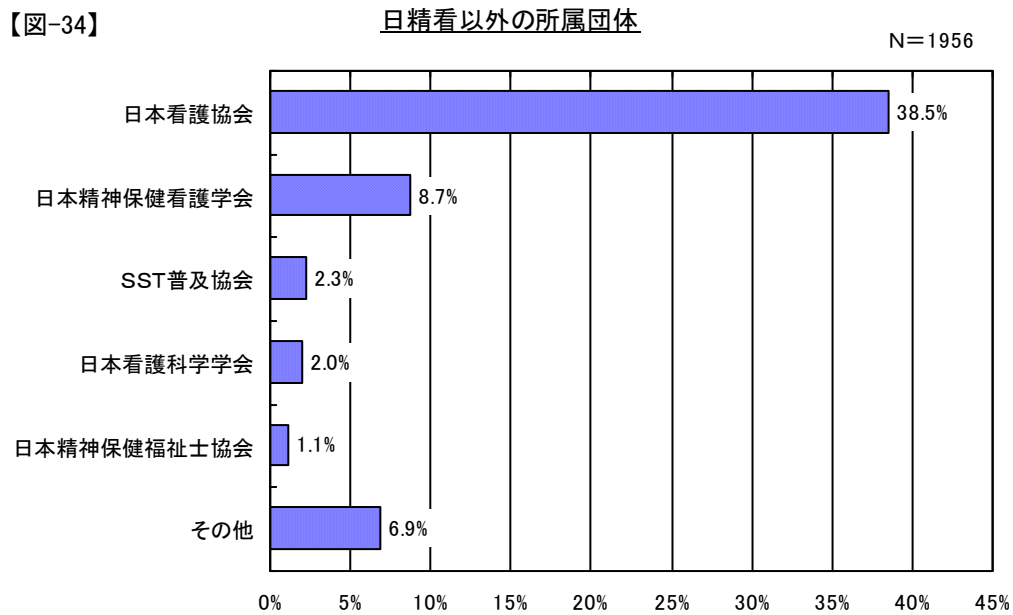
【図-33】

会費の自己負担の状況(設置主体別)



これを設置主体別にみると、「全額自己負担」している会員の割合は、“国”“公的機関”“学校法人”が9割を超えており、“医療法人”を20ポイント以上上回っている。

## 5) 日精看以外の所属団体



日精看以外に所属している団体について調査したところ、「日本看護協会」を挙げた会員の割合が38.5%で突出して高く、これに「日本精神保健看護学会」が8.7%で続いている。

【表-10】

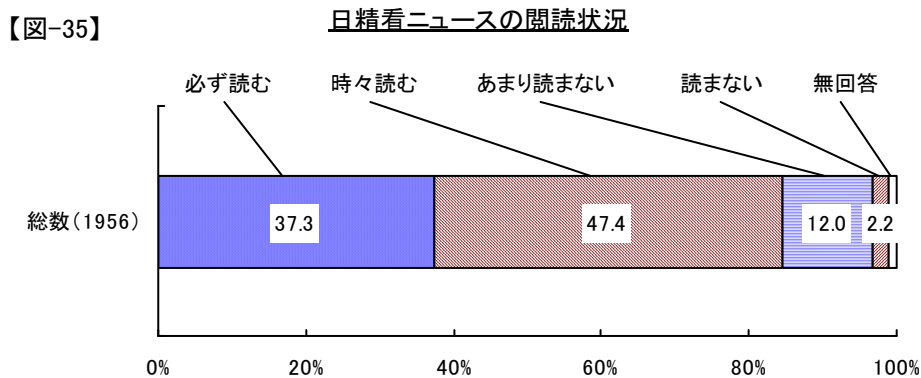
日精看以外の所属団体（設置主体別）

	日本看護協会	日本精神保健看護学会	SST普及協会	日本看護科学学会	日本精神保健福祉士協会	その他
【設置主体別】						
国（45）	64.4	11.1	0	4.4	2.2	13.3
公的機関（286）	62.6	8.7	1.7	3.8	2.1	9.1
社保関係団体（20）	45.0	10.0	5.0	5.0	0	5.0
公益法人（312）	39.7	8.0	3.5	0.6	1.3	9.0
医療法人（1164）	30.6	8.2	2.3	1.5	0.9	5.2
学校法人（30）	83.3	23.3	0	16.7	0	23.3
その他の法人（27）	51.9	3.7	3.7	3.7	0	11.1
個人（44）	22.7	13.6	0	0	0	2.3

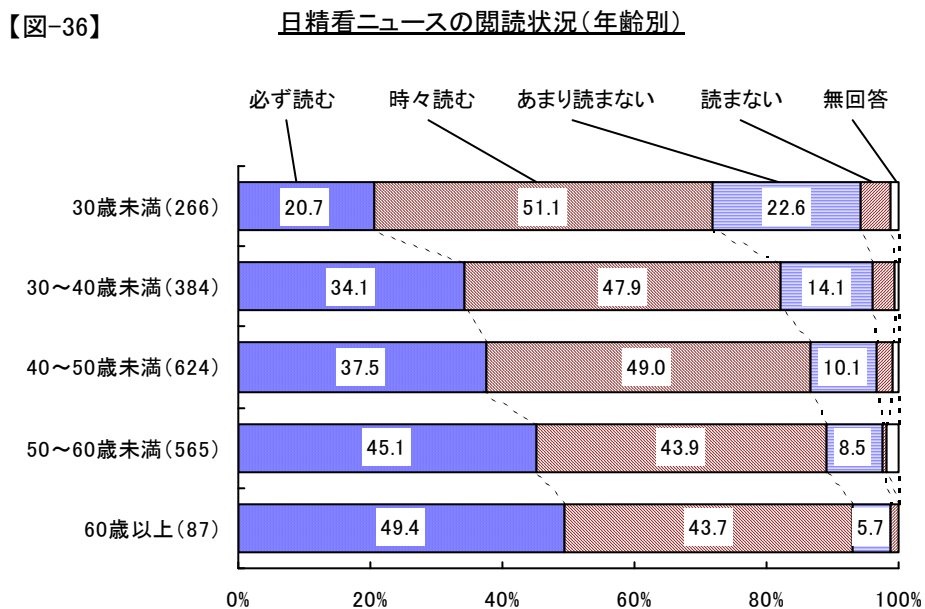
設置主体別にみると、「日本看護協会」を挙げた会員の割合は、“国”“公的機関”が“医療法人”を30ポイント以上上回っている。

## § 4. 協会について

### 1) 『日精看ニュース』の閲読状況



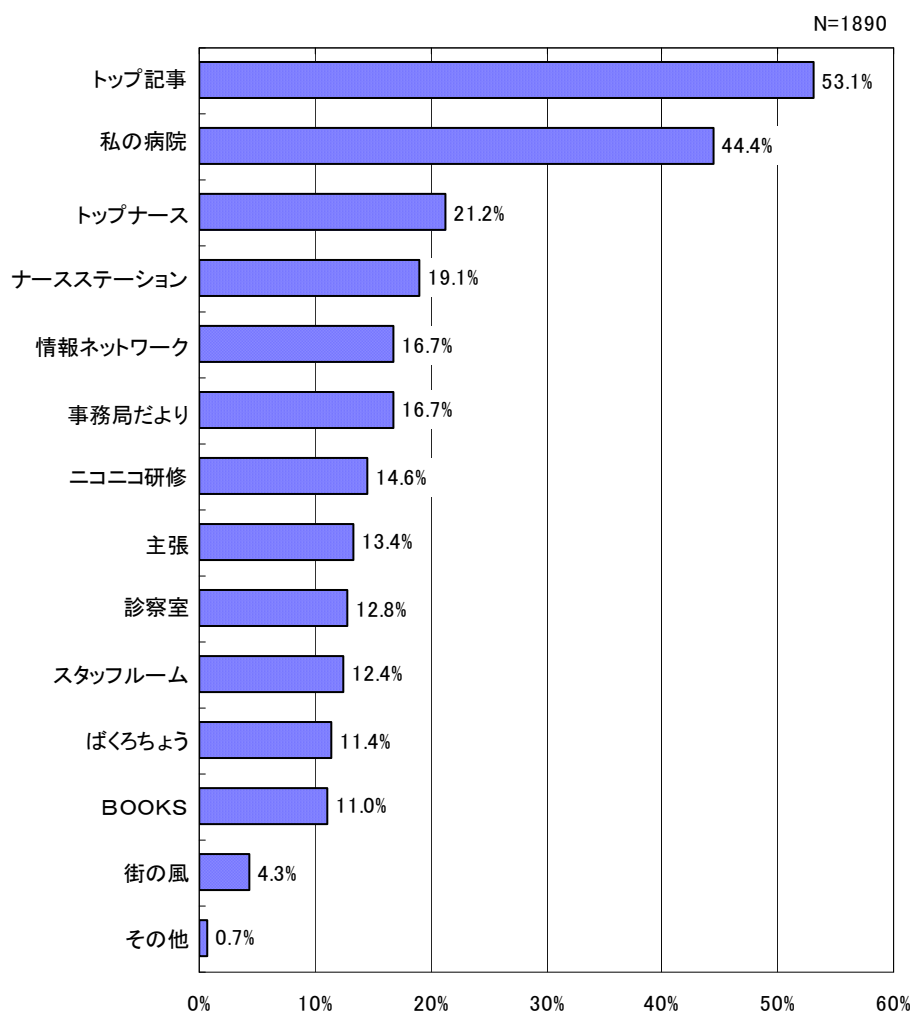
『日精看ニュース』の閲読状況について調査したところ、「必ず読む」会員の割合が37.3%である。「時々読む」会員の割合（47.4%）を併せると8割以上が閲読しており、『日精看ニュース』の閲読率は高いとみられる。



年齢別にみると、年齢層が高くなるほど閲読している会員の割合が高まる傾向がみられ、特に“60歳以上”では、半数近い会員が「必ず読む」と回答している。

【図-37】

## 日精看ニュースでよく見る記事

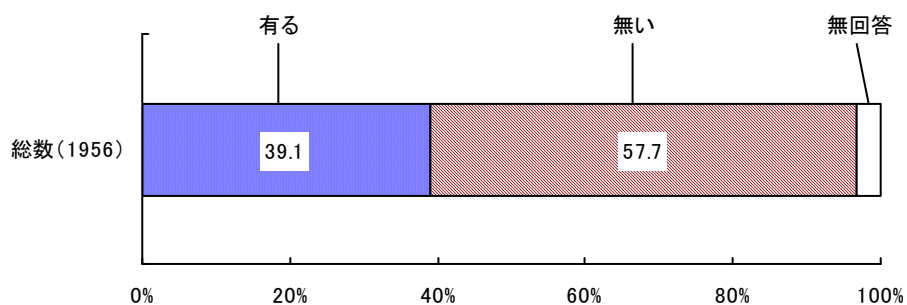


続いて、日精看ニュースを閲読している1,890名の会員に対して、よくみる記事について調査したところ、「トップ記事」を挙げた会員が53.1%で半数以上を占め、これに「私の病院」(44.4%)、「トップナース」(21.2%)、「ナースステーション」(19.1%)、「情報ネットワーク」(16.7%)、「事務局だより」(16.7%)・・・と続いている。

## 2) 学会と研修会

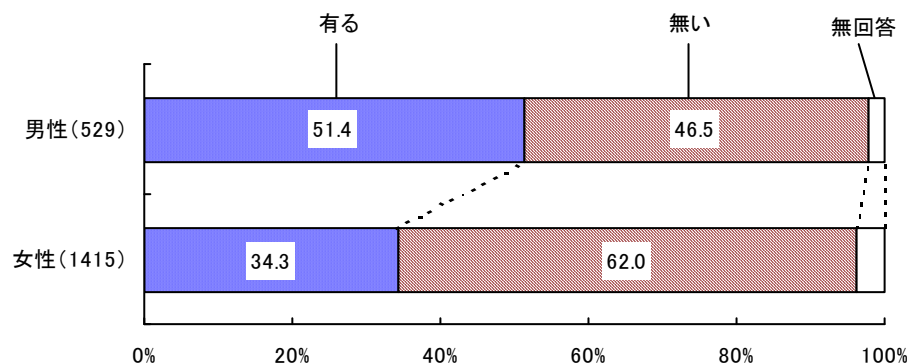
### ①全国学会

【図-38】 全国学会の参加経験の有無



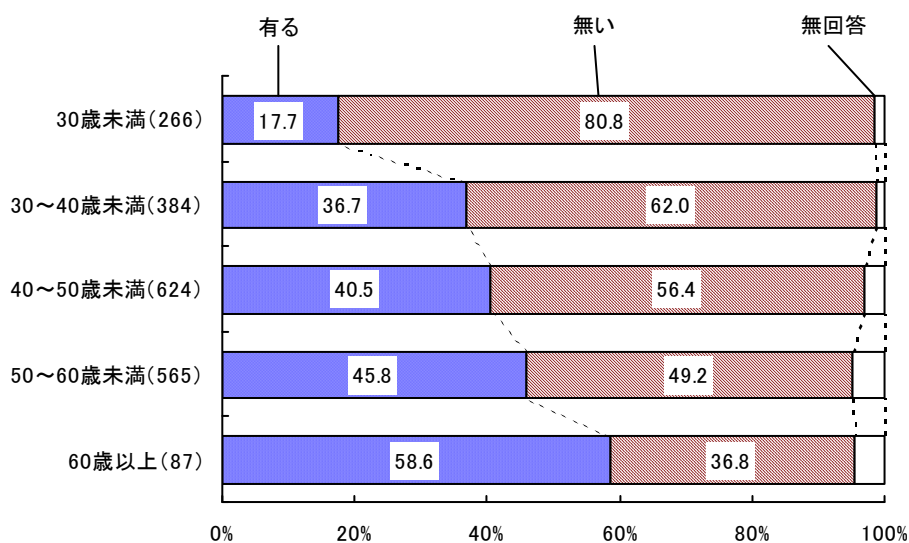
日精看主催の全国学会への参加経験の有無について調査したところ、「有る」と回答した会員の割合は39.1%である。

【図-39】 全国学会の参加経験の有無(性別)



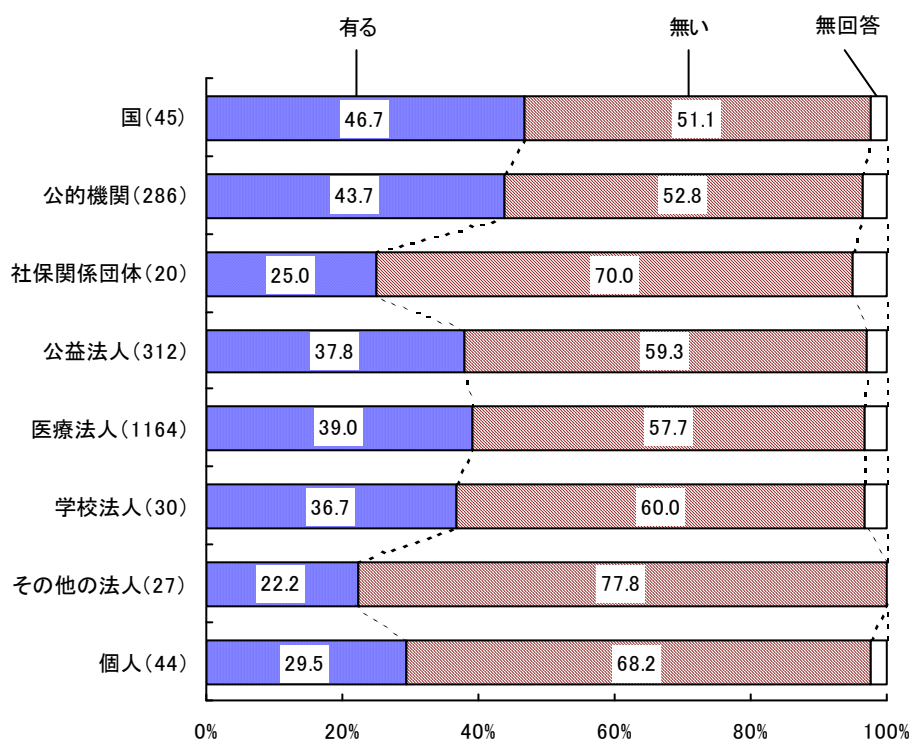
性別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、「男性」が「女性」を20ポイント近く上回っている。

【図-40】 全国学会の参加経験の有無(年齢別)



年齢別にみると、年齢層が高くなるほど、参加経験のある会員の割合が高くなり、60歳以上ではほぼ6割を占めている。

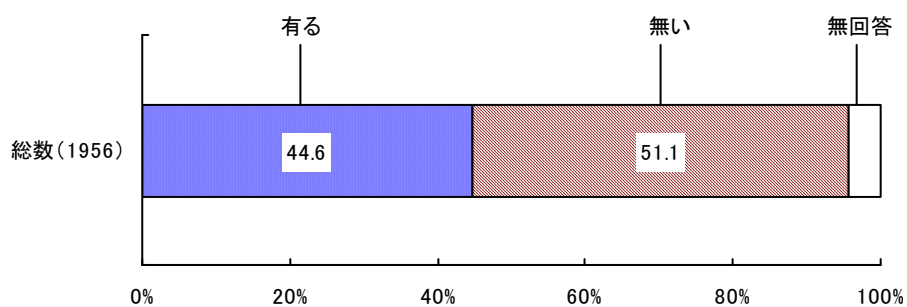
【図-41】 全国学会の参加経験の有無(設置主体別)



設置主体別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、“医療法人”“個人”などの民間系の施設に比べて、“国”“公的機関”などの国公立系の施設で高くなっている。

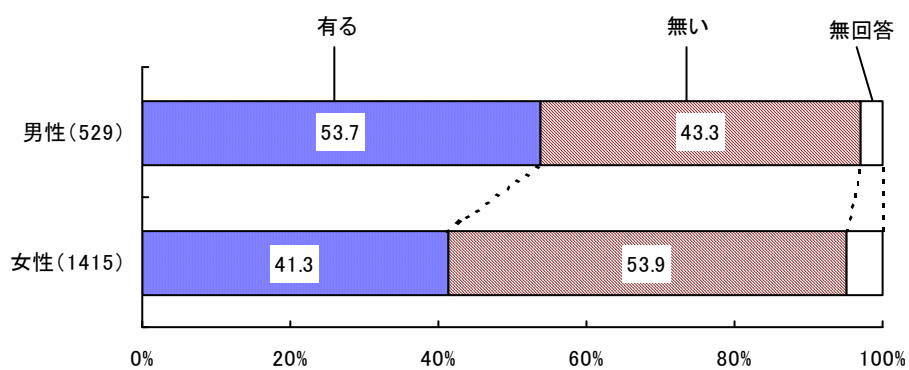
## ②専門学会

【図-42】 専門学会の参加経験の有無



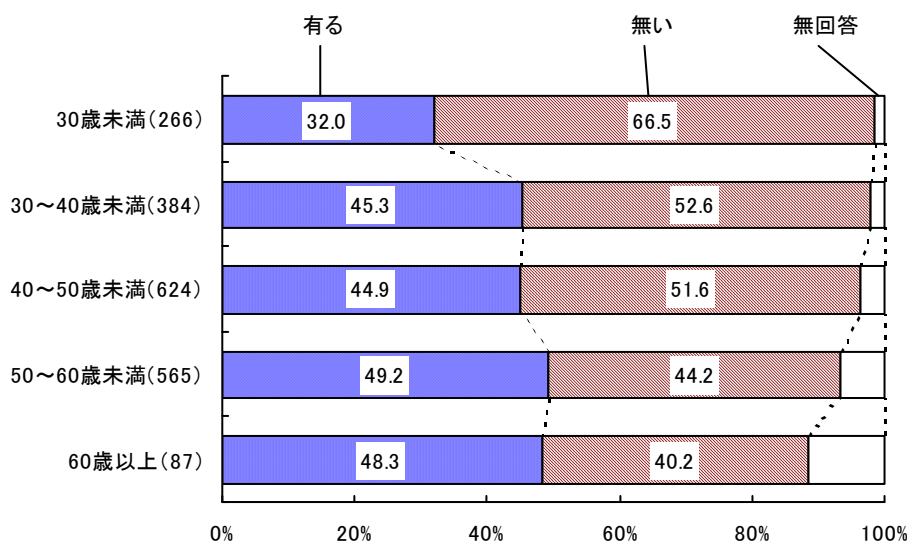
日精看主催の専門学会への参加経験の有無について調査したところ、「有る」と回答した会員の割合は44.6%である。

【図-43】 専門学会の参加経験の有無(性別)



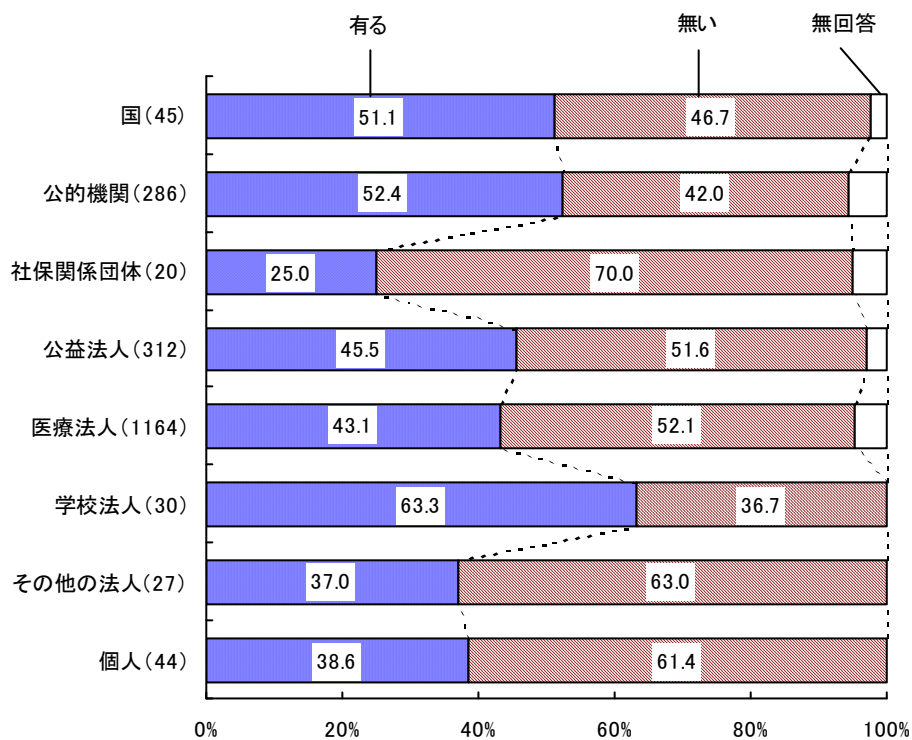
性別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、“男性”が“女性”を12ポイント以上上回っている。

【図-44】 専門学会の参加経験の有無(年齢別)



年齢別にみると、30歳代以上で参加経験のある会員の割合が高くなっているが、“30歳未満”から“60歳以上”にかけて同割合の伸びはほとんど無く、30歳代以上での年代による大きな差は認められない。

【図-45】 専門学会の参加経験の有無(設置主体別)



設置主体別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、“医療法人”“個人”などの民間系の施設に比べて、“国”“公的機関”などの国公立系の施設で高くなっている。

また、望まれる専門学会の内容について調査したところ、次のようなコメントがみられた。

【表-11】 望まれる専門学会の内容（自由意見）

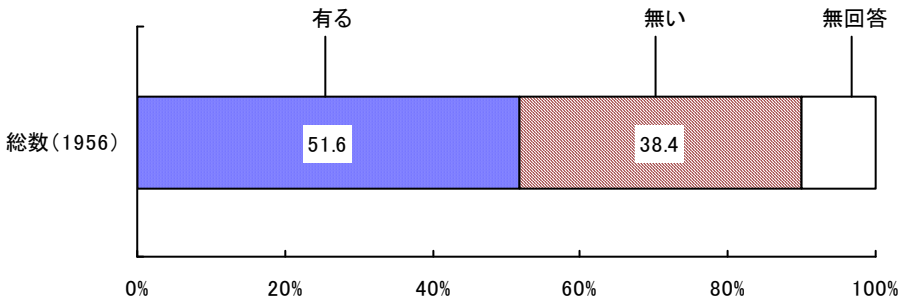
①看護技術に関わる内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『症状別看護』</li> <li>○『精神疾患患者に対する関わり方』</li> <li>○『急性期の看護』『救急看護』</li> <li>○『高齢者の看護』</li> <li>○『精神療法の技術』</li> <li>○『様々な症状に対する具体的な対応方法』</li> <li>○『人格障害に対する看護』『認知症の看護』</li> <li>○『身体合併症を持っている方への看護』</li> <li>○『摂食障害のある患者の看護』</li> </ul>
②法律・制度に関わる内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『身近に関わる法律』</li> <li>○『制度関係情報の充実』</li> <li>○『拘束についての正しい知識・法律・記録の仕方』</li> <li>○『精神科看護における情報管理』『情報に関わる個人の権利と情報の保護』</li> <li>○『法制度の改正』</li> </ul>
③病気に関わる内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『人格障害』</li> <li>○『思春期』『鬱』『認知症』</li> <li>○『虐待』『人格障害』『ACT』</li> <li>○『PTSD』『不眠症』『育児放棄』</li> <li>○『学齢期から思春期にかけての発達障害』</li> <li>○『ストレス疾患』</li> </ul>
④社会復帰に関わる内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『長期入院患者の社会復帰』『社会復帰施設』</li> <li>○『長期入院患者の社会復帰』</li> <li>○『社会復帰支援』</li> <li>○『社会資源の利用拡大』</li> </ul>
⑤薬剤に関わる内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『新薬による副作用』</li> <li>○『薬物療法』</li> </ul>
⑥その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『精神科における事故防止対策』</li> <li>○『患者家族』</li> <li>○『精神科訪問看護』</li> <li>○『世界各国の看護システム』</li> </ul>

	○ 『精神科病院と一般科病院との連携の重要性』
	○ 『認定看護師の地位の確立』

※自由意見の一部を掲載

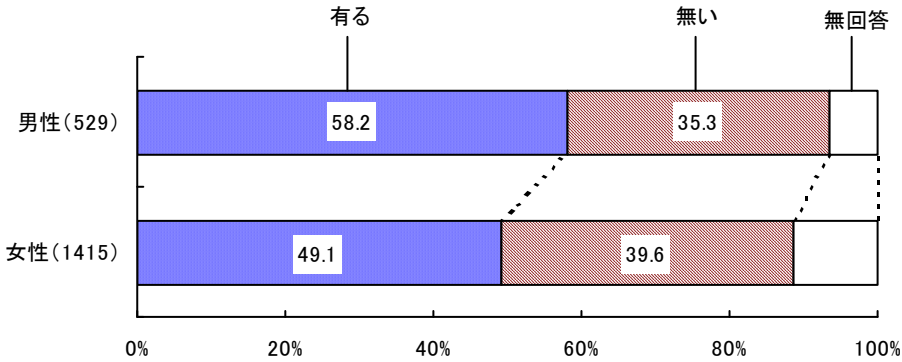
③協会主催の研修会

【図-46】 協会主催の研修会の参加経験の有無



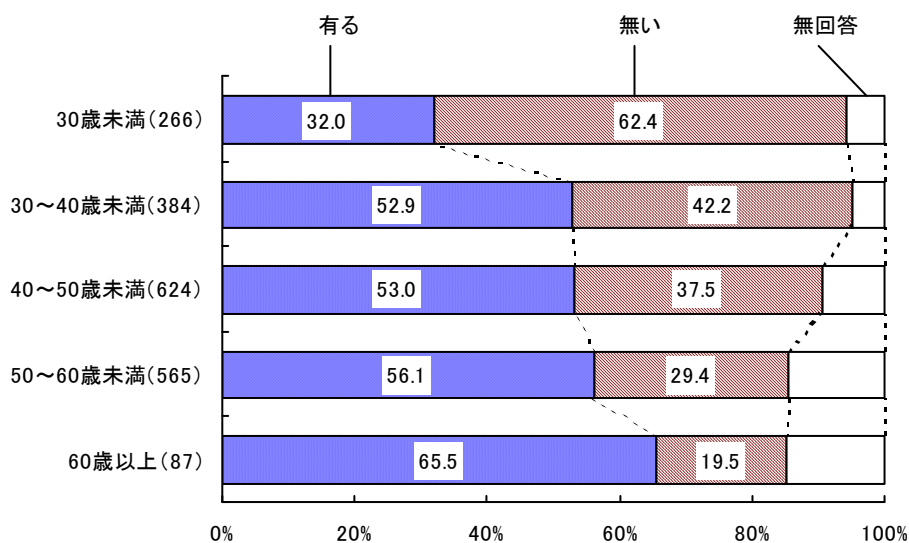
協会主催の研修会への参加経験の有無について調査したところ、「有る」と回答した会員の割合は51.6%であり、半数以上の会員が参加経験があるとみられる。

【図-47】 協会主催の研修会の参加経験の有無(性別)



性別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、“男性”が“女性”を10ポイント近く上回っている。

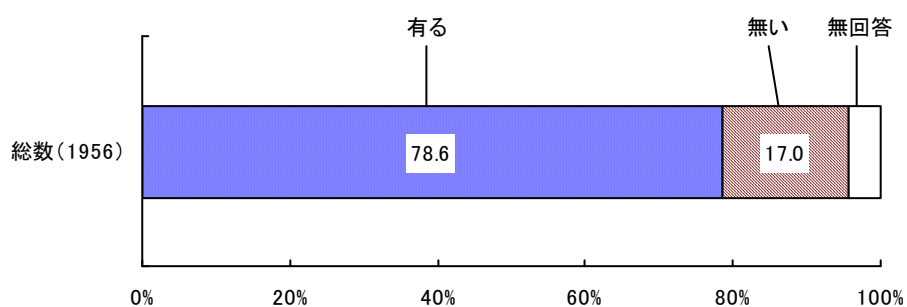
【図-48】 協会主催の研修会の参加経験の有無(年齢別)



年齢別にみると、年齢層が高くなるほど、参加経験のある会員の割合が高くなり、“60歳以上”では65%を超えている。

#### ④支部主催の研修会

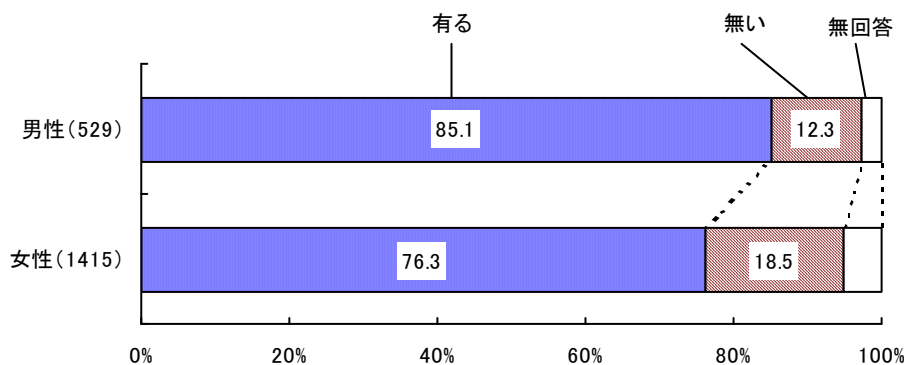
【図-49】 支部主催の研修会の参加経験の有無



支部主催の研修会への参加経験の有無について調査したところ、「有る」と回答した会員の割合は78.6%であり、大半の会員が参加経験があるとみられる。

【図-50】

支部主催の研修会の参加経験の有無(性別)



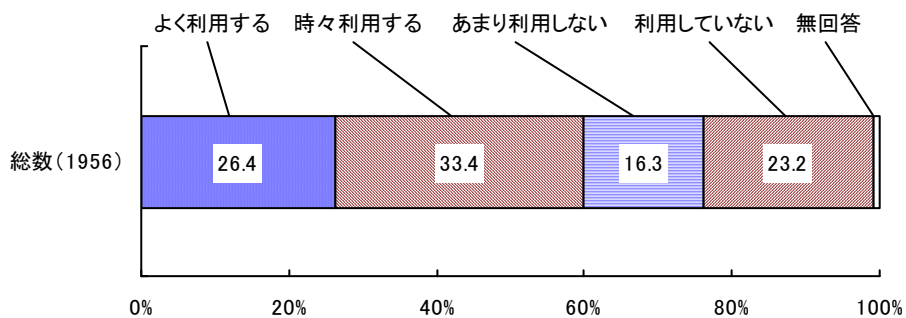
これを性別にみると、「有る」と回答した会員の割合は、「男性」が「女性」を10ポイント近く上回っている。

### 3) 協会ホームページ

#### ①パソコンの利用状況

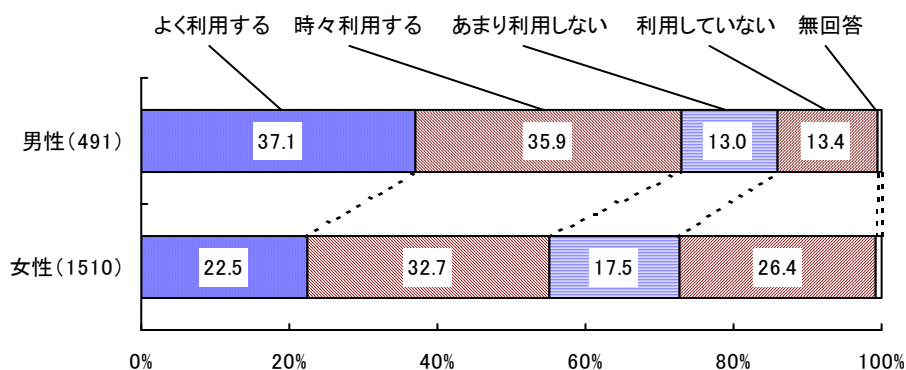
【図-51】

パソコンの利用状況



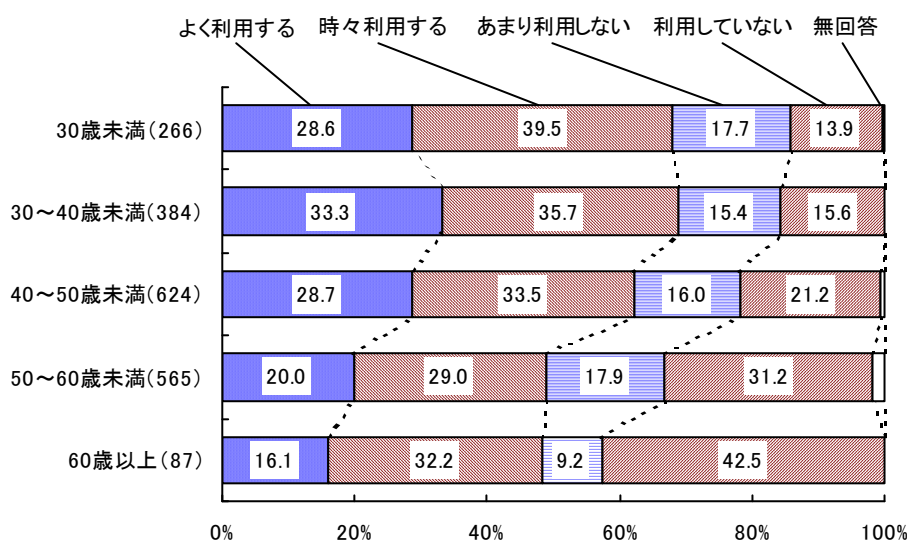
協会ホームページの閲覧状況について分析するに当たり、まず、パソコンの利用状況について調査したところ、パソコンを利用している（「よく利用する」+「時々利用する」）会員の割合は59.8%である。

【図-52】 パソコンの利用状況(性別)



性別にみると、利用している（「よく利用する」+「時々利用する」）会員の割合は、“男性”が“女性”を20ポイント近く上回っている。

【図-53】 パソコンの利用状況(年齢別)



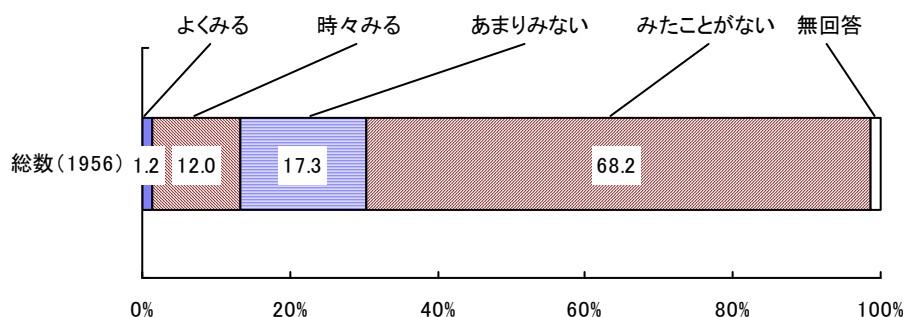
年齢別にみると、利用している（「よく利用する」+「時々利用する」）会員の割合は、年齢層が高くなるほど低下する傾向がみられ、パソコンは若い層を中心に利用されている状況が窺われる。

ただ、“60歳以上”でも利用している（「よく利用する」+「時々利用する」）会員の割合が5割近くを占めており、高齢層でもパソコンの利用者が増えている状況が窺われる。

## ②協会ホームページの閲覧状況

【図-54】

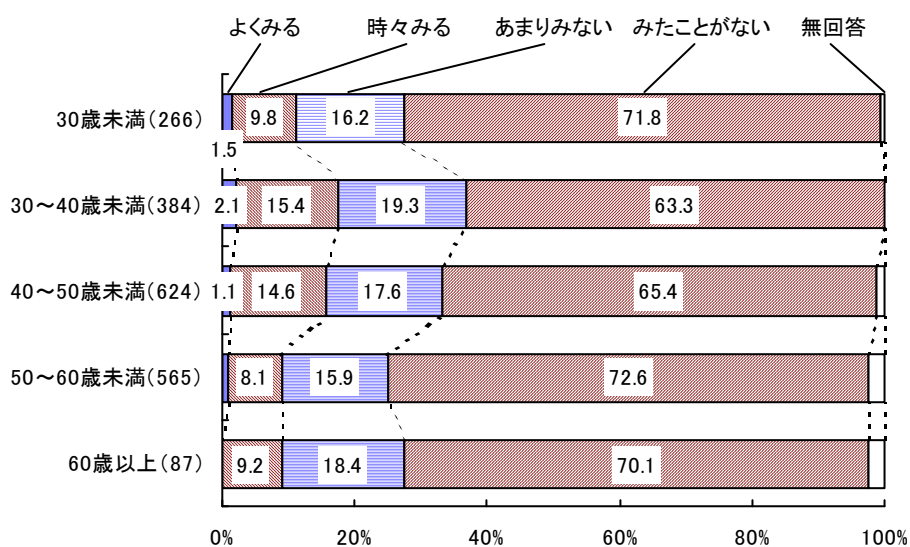
ホームページの閲覧状況



協会ホームページの閲覧状況についてみると、ホームページを閲覧している（「よくみる」+「時々みる」）会員の割合は13.2%である。

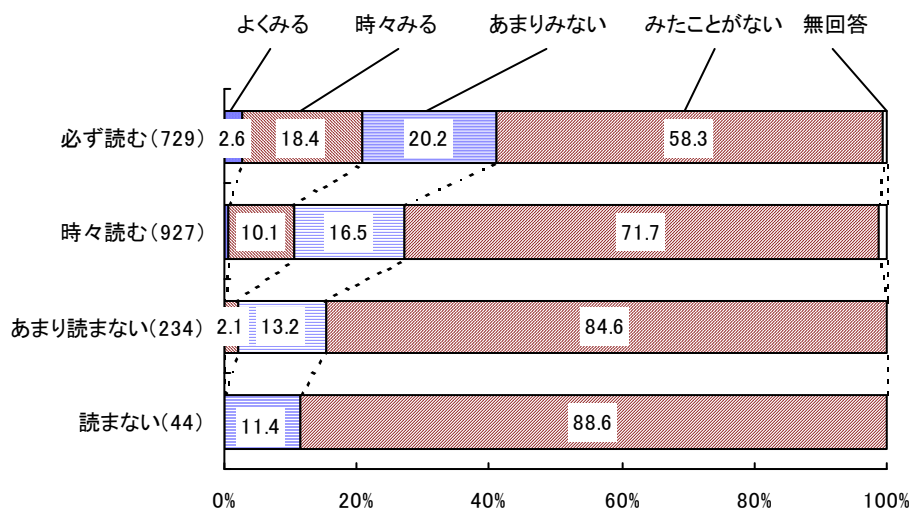
【図-55】

ホームページの閲覧状況(年齢別)



年齢別にみると、パソコンの利用率が高い“30~40歳未満”で閲覧している会員の割合が最も高く、50歳代以降で閲覧している（「よくみる」+「時々みる」）会員の割合が低くなっている。

【図-56】 ホームページの閲覧状況(日精看ニュース閲覧状況別)



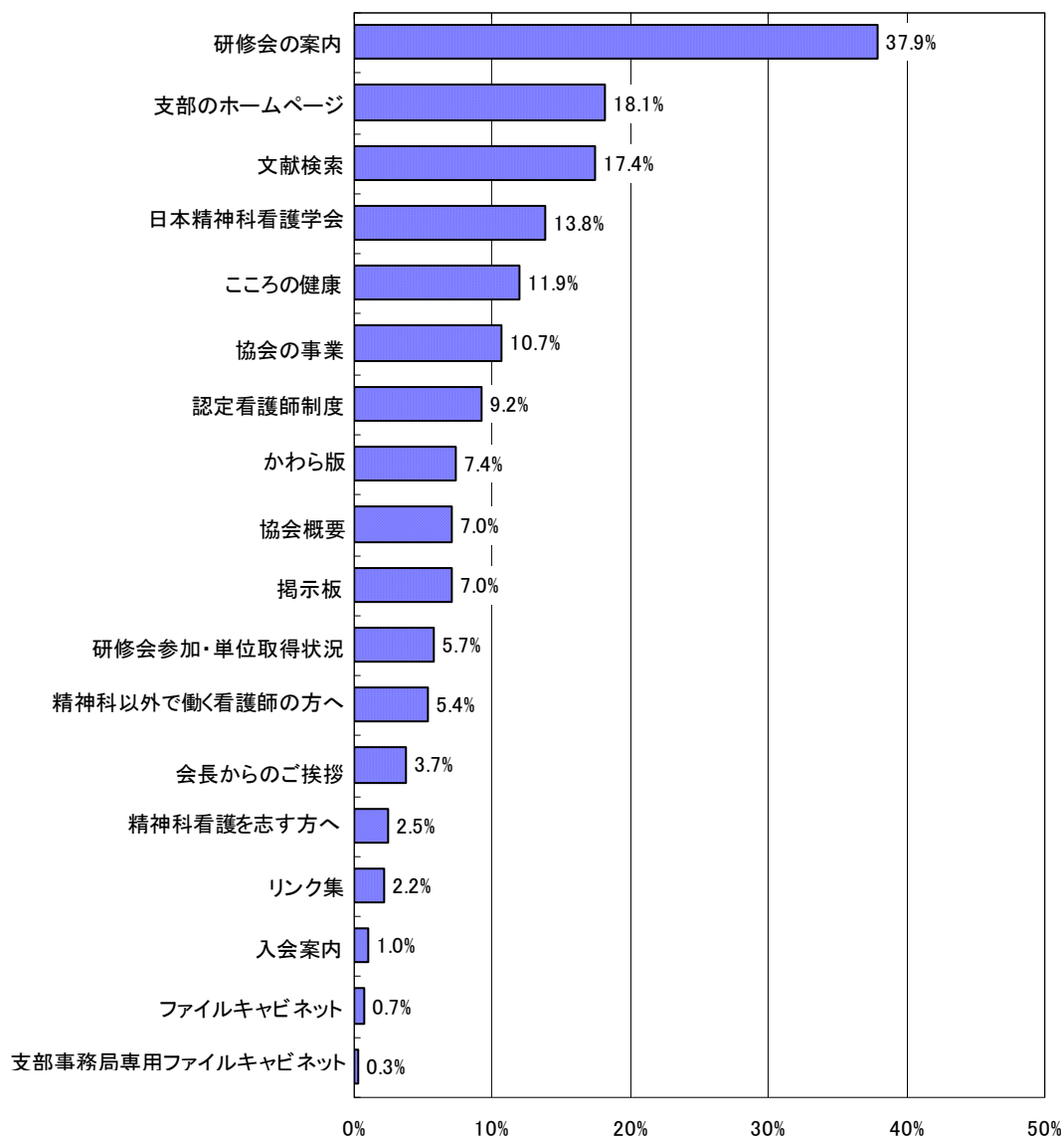
日精看ニュースの閲覧状況別にみると、日精看ニュースをよく読んでいる人ほど協会ホームページを閲覧している会員の割合が高くなっている。

日精看ニュースを「必ず読む」会員では、協会ホームページを閲覧している（「よくみる」+「時々みる」）会員の割合は2割を超えている。

【図-57】

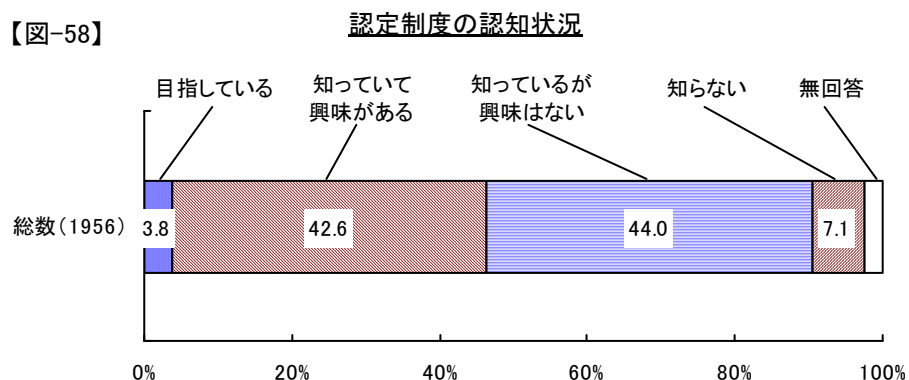
## 日精看ホームページでよく見るページ

N=596



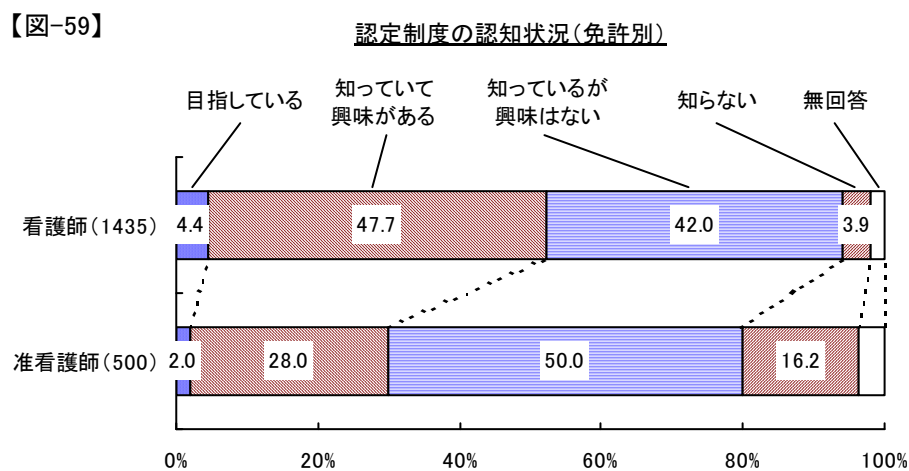
続いて、日精看のホームページを閲覧している 596 名の会員に対して、よく見るページについて調査したところ、「研修会の案内」を挙げた会員がの割合 37.9%で最も高く、これに「支部のホームページ」(18.1%)、「協会の事業」(17.4%)、「日本精神科看護学会」(13.8%)、「こころの健康」(10.7%)・・・と続いている。

#### 4) 認定制度の認知状況



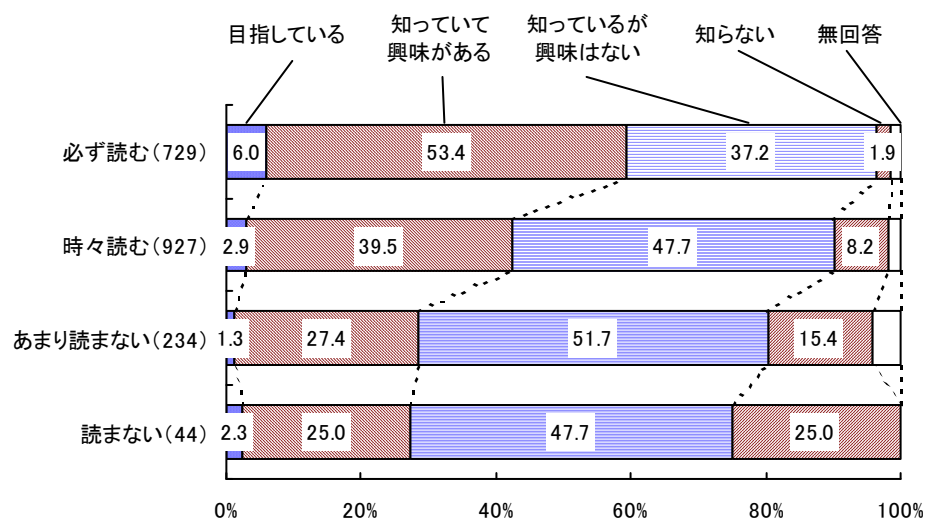
認定制度の認知状況について調査したところ、認知している（「目指している」+「知っていて興味がある」+「知っているが興味はない」）会員の割合は90.4%を占めており、ほとんどの会員が認定制度を認知しているとみられる。

また、認定制度に興味を持っている会員も半数近くを占めている。



働いている免許の種類別にみると、認知している会員、興味を持っている会員の割合とも“看護師”が“准看護師”を上回っている。

【図-60】 認定制度の認知状況(日精看ニュース閲読状況別)



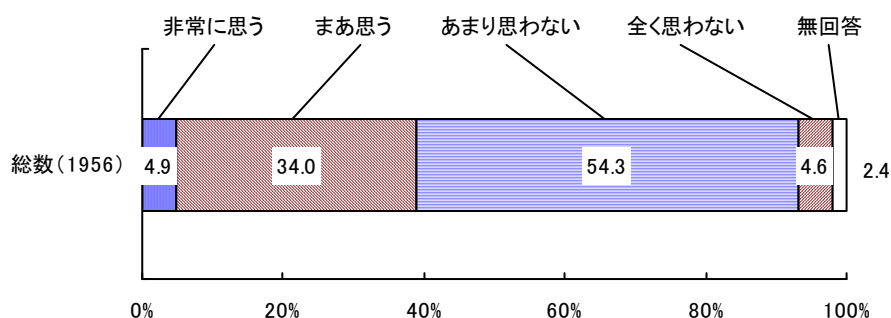
日精看ニュースの閲読状況別にみると、認知している会員、興味を持っている会員のどちらの割合も、日精看ニュースをよく閲読している会員ほど高くなっている。日精看ニュースの閲読が、認定制度の認知や興味に影響を与えていると推察される。

## § 5. 精神科看護に対する考えについて

### 精神科看護は社会的に認められていると思う

【図-61】

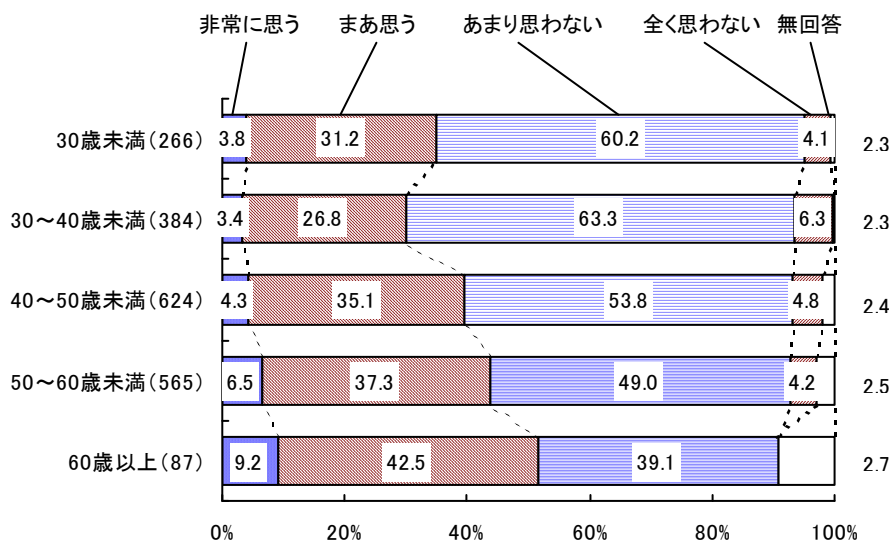
精神科看護は社会的に認められている



「精神科看護は、社会的に認められていると思う」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「あまり思わない」との回答が 54.3% で半数以上を占めている。「全く思わない」を合わせれば 6 割近くを占め、大半の会員が同考えに否定的な意識を持っていると推察される。

【図-62】

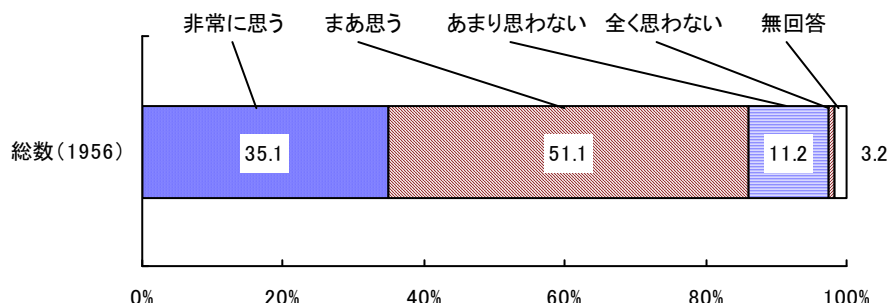
精神科は社会的に認められている(年齢別)



年齢別にみると、年齢層が高くなるほど同考えに否定的な意識を持った会員の割合が低下し、肯定的な意識を持った会員の割合が高まる傾向がみられる。特に“60歳以上”では、肯定的な意識を持った会員の割合が、否定的な意識を持った会員のそれを 10 ポイント以上上回っている。

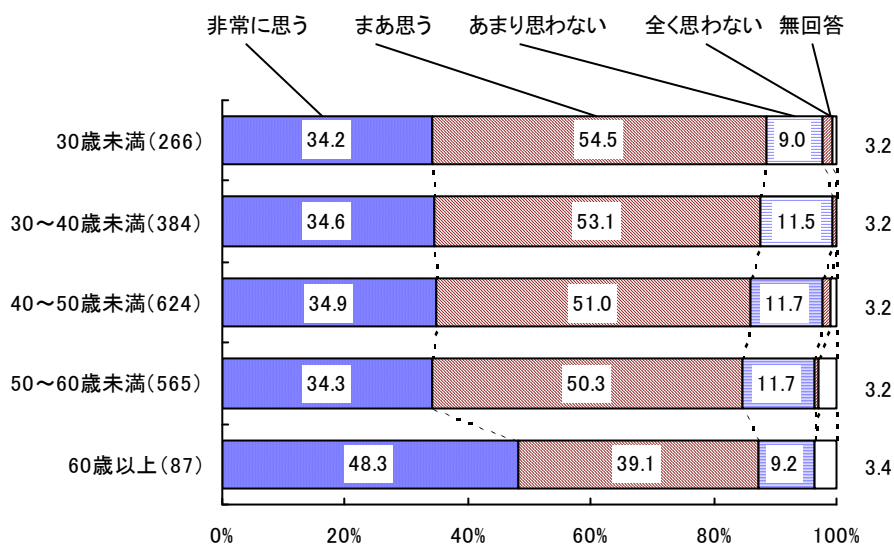
## 精神科看護が好きである

【図-63】 精神科看護が好きである



「精神科看護が好きである」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「まあ思う」との回答が51.1%で半数以上を占めている。「非常に思う」を合わせれば8割を大きく上回り、ほとんどの会員が同考えに肯定的な意識を持っているとみられる。

【図-64】 精神科看護が好きである(年齢別)

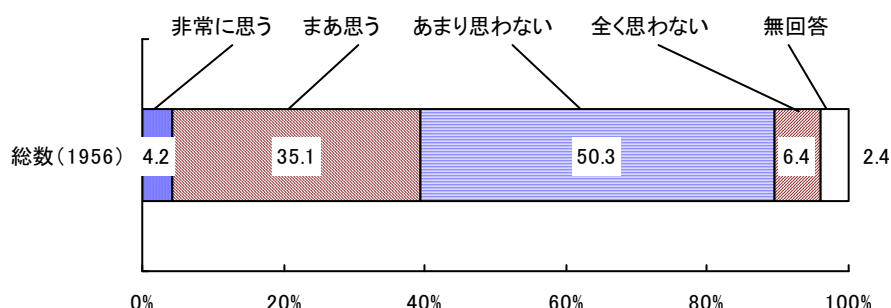


年齢別にみると、いずれの年齢層においても同考えに肯定的な意識を持った会員の割合が8割を超えており、年齢による同考えに対する意識の差はほとんどないとみられる。

また、“60歳以上”では、「非常に思う」が48.3%を占めており、高齢層では特に「精神科看護が好きである」との意識を強く持った会員の割合が高いといえる。

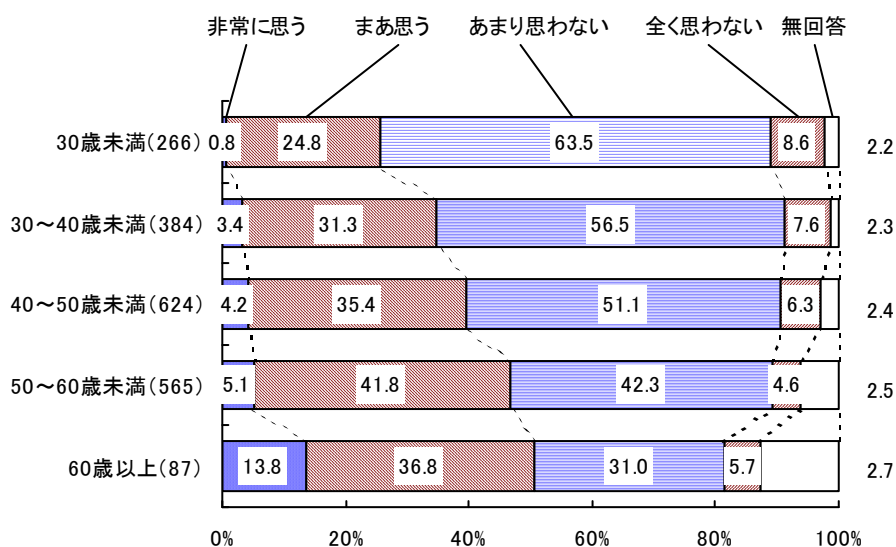
## 精神科看護は、定義が明確であると思う

【図-65】 精神科看護は定義が明確である



「精神科看護は、定義が明確である」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「あまり思わない」との回答が50.3%で半数以上を占めている。「全く思わない」を合わせれば56.7%を占め、半数以上の会員が同考えに否定的な意識を持っていると考えられる。

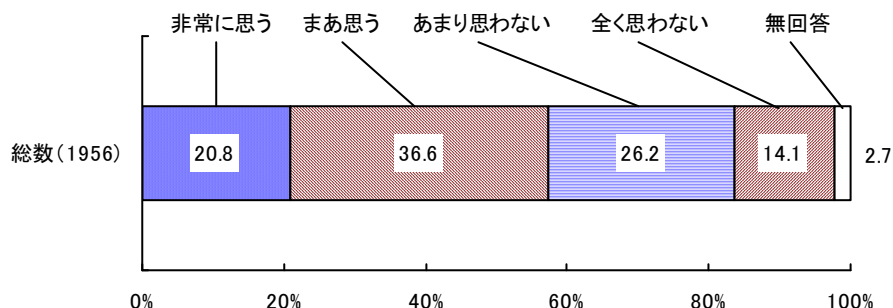
【図-66】 精神科看護は定義が明確である(年齢別)



年齢別にみると、年齢層が高くなるほど同考えに肯定的な意識を持った会員の割合が高まる傾向がみられる。特に50歳代以上では、肯定的な意識を持った会員の割合が、否定的な意識を持った会員のそれを上回っている。

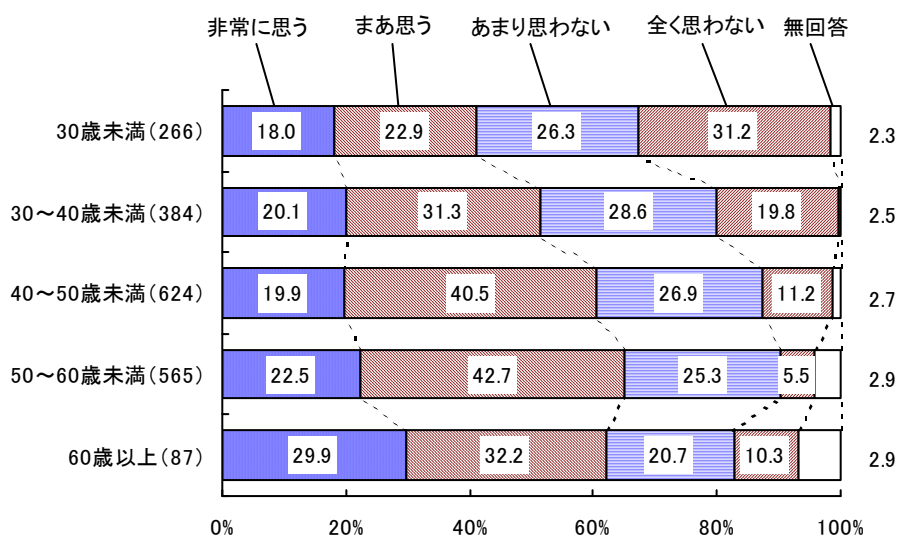
精神科看護では、身体的ケア技術を習得できないので不安に感じることがある

【図-67】 精神科看護では身体的ケア技術を習得できない



「精神科看護では、身体的ケア技術を習得できないので不安に感じることがある」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「まあ思う」との回答した会員の割合が36.6%、これに「非常に思う」を合わせれば6割近くを占め、大半の会員が同考えに肯定的な意識を持っているとみられる。

【図-68】 精神科看護では身体的ケア技術を習得できない(年齢別)



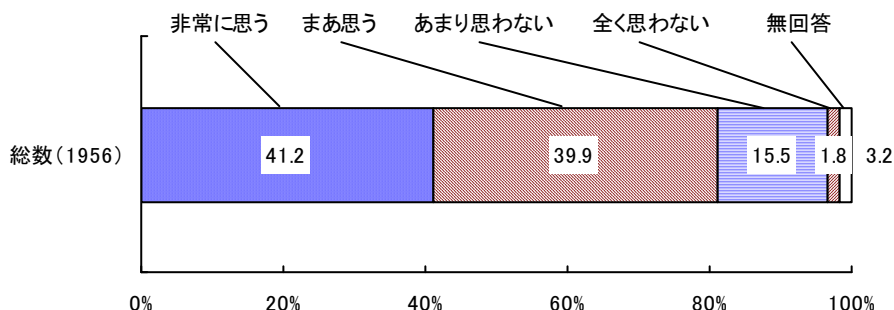
年齢別にみると、年齢層が高くなるほど同考えに肯定的な意識をもった会員の割合が高まる傾向がみられる。

50歳代以上では、6割を超える会員が同考えに肯定的な意識をもっており、特に高齢層において、身体的ケアを習得できな点に不安を持っている人が多いと推察される。

## 精神科看護は、他の分野に比べて専門性が高いと思う

【図-69】

精神科看護は専門性が高い

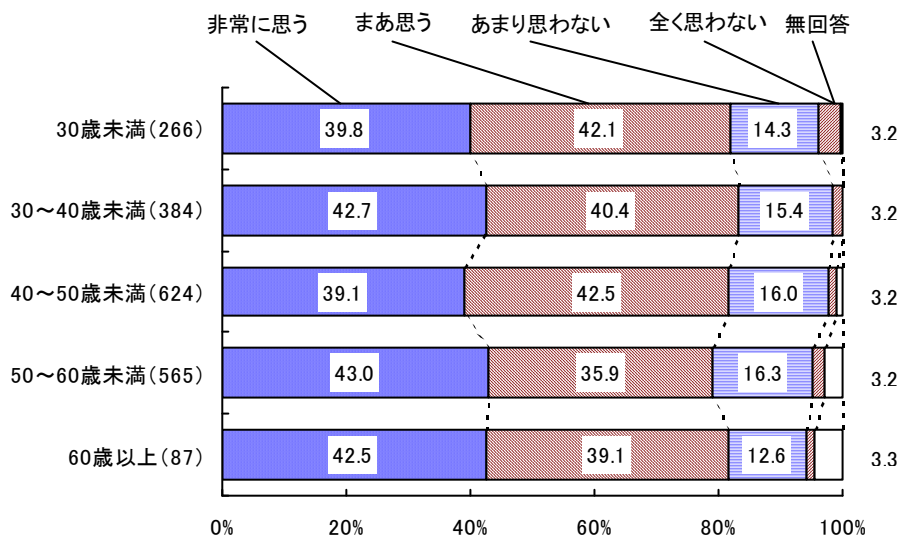


「精神科看護は、他の分野に比べて専門性が高いと思う」との考えに対する会員の意識を調査したところ、「非常に思う」との回答が41.2%を占めており、同考えに強く同意している会員の割合が高いといえる。

また、「まあ思う」を合わせれば8割を上回り、ほとんどの会員が同考えに肯定的な意識を持っているとみられる。

【図-70】

精神科看護は専門性が高い(年齢別)



年齢別にみると、いずれの年齢層においても同考えに肯定的な意識を持った会員の割合が8割前後を占めており、年齢による同考えに対する意識の差はほとんどないとみられる。

## 調査結果の総括

平成 16 年度会員基礎調査は、平成 14 年度の第 1 回調査に続く第 2 回目の調査である。本調査は、我が国の精神保健医療福祉が病院から地域へとシフトしようとする変化の中で、精神にまつわるケアを多様な場で提供する看護職員の現状を、多角的かつ継続的に把握しようとする国内唯一の調査である。

本調査は平成 16 年度総務委員会が企画実施までを担当し、17 年度は情報センターで調査データの分析・報告書の作成を担当した。

### 1) 性別

1,956 名のうち、「男性」は 529 名(27.0%)、「女性」は 1,415 名(72.3%)、「無回答」が 12 名(0.6%)であった。

### 2) 年齢構成

「40～50 歳未満」が 624 人(31.9%)で最も多く、次いで「50～60 歳未満」が 565 人(28.9%)、「30～40 歳未満」が 384 人(19.6%)、「30 歳未満」が 266 人(13.6%)、最も少なかったのは「60 歳以上」で 87 人(4.4%)であった。平均年齢は 43.7 歳であった。

### 3) 所有免許の種類(複数回答)

本調査では「助産師」「介護支援専門員」「精神保健福祉士」の免許種類を加えた。「看護師」が 1,446 名(73.9%)、「准看護師」が 887 名(45.3%)、「保健師」が 42 名(2.1%)、「助産師」が 11 名(0.6%)、「介護支援専門員」が 140 名(7.2%)、「精神保健福祉士」が 29 名(1.5%)、「無回答」が 8 名(0.4%)であった。

### 4) 看護師学校養成所 2 年過程(通信制)への進学希望

本調査では初めて進学希望について調査した。本調査中「准看護師」資格で働いている者のうち、回答のあった 500 名の看護師養成所 2 年課程(通信制)への進学希望は、「希望する」が 184 人(36.8%)、「希望しない」が 305 人(61.0%)であった。更に進学を「希望する」者の内、実際に「進学予定」は 17.4%であった。また、年齢別では「30～40 歳未満」で「希望する」会員の割合が最も高く 67.7%であった。

### 5) 主たる勤務先

本調査では前回調査の「病院」を「総合病院」「精神病院」に分別した。また「企業」を加えた。「総合病院」が 184 名(9.4%)、「精神病院」が 1,670 名(85.4%)、「診療所」が 9 名(0.5%)、「訪問看護ステーション」が 12 名(0.6%)、「社会復帰施設」が 16 名(0.8%)、「都道府県・市町村」が 10 名(0.5%)、「企業」が 1 名(0.1%)、「教育・研究機関」が 33 名(1.7%)、その他が 8 名(0.4%)であった。

## 6) 会員期間

本調査では会員期間が「5年未満」が30.8%、「5～20年未満」が51.9%、「20年以上」が14.3%であった。前回調査では会員期間が「5年未満」が38.7%、「5～20年未満」が43.9%、「20年以上」が13.9%であり、割合の変化が見られた。

## 7) 会員になった動機(複数回答)

本調査では次の3つの回答が動機のほとんどを占めていた。「精神科の職能団体から」が62.8%、「勧められたから」が51.0%、「学会や研修に参加するため」が43.4%であった。

## 8) 「日精看ニュース」の閲読状況

本調査では「必ず読む」が37.8%、「時々読む」が47.4%であり、これらを合わせて84.7%が閲読していた。前回調査では合わせて85.5%であった。

## 9) 「協会ホームページ」の閲覧状況

本調査ではホームページの閲覧状況は「よくみる」が1.2%、「時々見る」が13.2%であり、これらを合わせて14.4%であった。前回調査では合わせて11.3%であった。

## 10) 学会と研修

本調査では前回調査の「学会」を「全国学会」「専門学会」に分別した。学会参加経験の有無で「ある」との回答が、「全国学会」で39.1%、「専門学会」で44.6%であった。

また研修会参加経験の有無で「はい」との回答が、「協会主催」で51.6%、「支部主催」で78.6%であった。

## まとめ

いくつかのデータを示したが、全体的に本調査結果は前回調査との変化が少ない傾向にあった。若干の変化があったものもあるが本調査はまだ2回目であり、引き続き推移を見ていく必要がある。

## 日本精神科看護技術協会会員実態調査報告書

---

発行日 2005年3月

発行 社団法人 日本精神科看護技術協会

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町 2-3-2

TEL03-3667-8661 FAX03-3667-8662

集計・分析 有限会社 ヘルスケア総合研究所

〒181-0005 東京都三鷹市中原 4-25-14

TEL0422-43-3557 FAX0422-43-3557

---

本書の一部または全文を著作権法の定める範囲を超え、無断で複写、複製、転載、テープ化、ファイル化することを禁じます。